

# 卒業要件外の科目

卒業要件外科目一覧

科目コード	2011年度入学生		2010年度入学生		2009年度入学生		2008年度入学生	
50000	教職論		教職論		教職論		教職論	
50001	教育原理	2年次配当	教育原理		教育原理		教育原理	
50002	教育心理学	2年次配当	教育心理学		教育心理学		教育心理学	
50003	教育行政学	2年次配当	教育行政学		教育行政学		教育行政学	
50004					英語科教育法Ⅰ		英語科教育法Ⅰ	
50005					英語科教育法Ⅱ		英語科教育法Ⅱ	
50006					英語科教育法Ⅲ		英語科教育法Ⅲ	
50007	福祉科教育法	3年次配当	福祉科教育法	3年次配当	福祉科教育法		福祉科教育法	
50008			社会科教育法	3年次配当	社会科教育法		社会科教育法	
50009	社会科・地理歴史科教育法	3年次配当	社会科・地理歴史科教育法	3年次配当	社会科・地理歴史科教育法		社会科・地理歴史科教育法	
50010	社会科・公民科教育法	3年次配当	社会科・公民科教育法	3年次配当	社会科・公民科教育法		社会科・公民科教育法	
50011	家庭科教育法Ⅰ	2年次配当	家庭科教育法Ⅰ		家庭科教育法Ⅰ		家庭科教育法Ⅰ	
50012	家庭科教育法Ⅱ	2年次配当	家庭科教育法Ⅱ		家庭科教育法Ⅱ		家庭科教育法Ⅱ	
50013	家庭科教育法Ⅲ	3年次配当	家庭科教育法Ⅲ	3年次配当	家庭科教育法Ⅲ		家庭科教育法Ⅲ	
50014	家庭科教育法Ⅳ	3年次配当	家庭科教育法Ⅳ	3年次配当	家庭科教育法Ⅳ		家庭科教育法Ⅳ	
50015	道德教育の理論と方法	2年次配当	道德教育の研究		道德教育の研究		道德教育の研究	
50016	特別活動の理論と方法	2年次配当	特別活動の研究		特別活動の研究		特別活動の研究	
50017	教育方法論	2年次配当	教育方法の研究		教育方法の研究		教育方法の研究	
50018	教育相談の基礎	3年次配当	教育相談の基礎	3年次配当	教育相談の基礎		カウンセリングⅠ(生徒指導含む)	
50019	生徒・進路指導論	3年次配当	生徒・進路指導論	3年次配当	生徒・進路指導論		カウンセリングⅡ(進路指導含む)	
50020	学校カウンセリング実践	4年次配当	学校カウンセリング実践	4年次配当	学校カウンセリング実践	4年次配当	教育相談	
50021					教職総合演習		教職総合演習	
50022							地球ウォーキング演習Ⅰ(総合演習)	→14105参照
50023							人間福祉演習Ⅰ(総合演習)	→21003参照
50024							総合演習	→22105参照
50025	中等教育実習Ⅰ(事前事後指導1単位を含む)	4年次配当	中等教育実習Ⅰ(事前事後指導1単位を含む)	4年次配当	中等教育実習Ⅰ(事前事後指導1単位を含む)		中等教育実習Ⅰ(事前事後指導1単位を含む)	
50026	中等教育実習Ⅱ	4年次配当	中等教育実習Ⅱ	4年次配当	中等教育実習Ⅱ		中等教育実習Ⅱ	
50027					人文地理学		人文地理学	
50028	自然地理学	2年次配当	自然地理学		自然地理学		自然地理学	
50029	地誌	2年次配当	地誌		地誌		地誌	
50030			介護技術		介護技術		介護技術	
50031	介護等体験(事前事後指導含む)	2年次配当	介護等体験(事前事後指導含む)		介護等体験(事前事後指導含む)		介護等体験(事前事後指導含む)	
50032	生涯学習概論	2年次配当	生涯学習概論		生涯学習概論		生涯学習概論	
50033	社会教育計画	2年次配当	社会教育計画		社会教育計画		社会教育計画	
50034	社会教育演習	3年次配当	社会教育演習	3年次配当	社会教育演習		社会教育演習	
50035	社会教育実習	休講	社会教育実習	休講	社会教育実習	休講	社会教育実習	休講
50036	社会教育課題研究	休講	社会教育課題研究	休講	社会教育課題研究	休講	社会教育課題研究	休講
50037	博物館概論	2年次配当	博物館概論		博物館概論		博物館概論	
50038	博物館学各論	3年次配当	博物館学各論	3年次配当	博物館学各論		博物館学各論	
50039	視聴覚教育メディア論	2年次配当	視聴覚教育メディア論		視聴覚教育メディア論		視聴覚教育メディア論	
50040	体育及びレクリエーション指導	休講	体育及びレクリエーション指導	休講	体育及びレクリエーション指導	休講	体育及びレクリエーション指導	休講
50041	博物館実習	3年次配当	博物館実習	3年次配当	博物館実習		博物館実習	
50050	学校経営と学校図書館	3年次配当	学校経営と学校図書館	3年次配当	学校経営と学校図書館		学校経営と学校図書館	
50051	学校図書館メディアの構成	3年次配当	学校図書館メディアの構成	3年次配当	学校図書館メディアの構成		学校図書館メディアの構成	
50052	学習指導と学校図書館	3年次配当	学習指導と学校図書館	3年次配当	学習指導と学校図書館		学習指導と学校図書館	
50053	読書と豊かな人間性	3年次配当	読書と豊かな人間性	3年次配当	読書と豊かな人間性		読書と豊かな人間性	
50054	情報メディアの活用	2年次配当	情報メディアの活用		情報メディアの活用		情報メディアの活用	
50055	教育課程論	3年次配当	教育課程論	3年次配当	教育課程論		教育課程論	
50056	栄養教育実習(事前事後指導1単位を含む)	4年次配当	栄養教育実習(事前事後指導1単位を含む)	4年次配当	栄養教育実習(事前事後指導1単位を含む)		栄養教育実習(事前事後指導1単位を含む)	
50057					学校栄養指導論Ⅰ	→22167参照	学校栄養指導論Ⅰ	→22167参照
50058					学校栄養指導論Ⅱ	→22168参照	学校栄養指導論Ⅱ	→22168参照
50059	日本語教育概論		日本語教育概論		日本語教育概論		日本語教育概論	
50060	日本語と社会		日本語と社会		日本語と社会		日本語と社会	
50061	日本語と心理	2年次配当	日本語と心理		日本語と心理		日本語と心理	
50062	日本語教育実習	3年次配当	日本語教育実習	3年次配当	日本語教育実習		日本語教育実習	
50063	日本語学各論Ⅰ(音声)		日本語学各論Ⅰ(音声)		日本語学各論Ⅰ(音声)		日本語学各論Ⅰ(音声)	
50064	日本語学各論Ⅱ(文字)		日本語学各論Ⅱ(文字)		日本語学各論Ⅱ(文字)		日本語学各論Ⅱ(文字)	
50065	日本語の構造Ⅰ	2年次配当	日本語の構造Ⅰ		日本語の構造Ⅰ		日本語の構造Ⅰ	
50066	日本語の構造Ⅱ	休講	日本語の構造Ⅱ	休講	日本語の構造Ⅱ	休講	日本語の構造Ⅱ	休講
50067	日本語の歴史	2年次配当	日本語の歴史		日本語の歴史		日本語の歴史	
50068	生徒指導論	3年次配当	生徒指導論	3年次配当	生徒指導論		生徒指導論	
50069	養護実習(事前事後指導1単位を含む)	4年次配当	養護実習(事前事後指導1単位を含む)	4年次配当				
50070	教職実践演習(中学校・高等学校)	4年次配当	教職実践演習(中学校・高等学校)	4年次配当				
50071	教職実践演習(栄養)	4年次配当	教職実践演習(栄養)	4年次配当				
50072	教職実践演習(養護)	4年次配当	教職実践演習(養護)	4年次配当				
50073	養護概説	3年次配当	養護概説	3年次配当				
50074	社会科教育法	3年次配当						

## 50000 教職論 a

(Studies in Teaching Profession a)

配置年次 1

単位数 2 期間 後期

担当者 渡部 芳樹

履修可能学科

E C W F N M

関連資格

教職

到達目標

[目的]

教職に就く上で不可欠である基礎知識を習得すると共に、教職に就く意義と求められる資質について理解を深めることを目指す。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 伝統的教師像—教師像の変遷 (1) —
3. 近代的教師像— (2) —
4. 求められる教員の資質— (3) —
5. 教育権と教員—法規における教員 (1) —
6. 日本国憲法と教員— (2) —
7. 専門職としての教員— (3) —
8. 公務員としての教員— (4) —
9. 教員の研修— (5) —
10. 教育改革の歩み—新たな教育課題と教員 (1) —
11. 説明責任— (2) —
12. 情報化への対応— (3) —
13. 国際化への対応— (4) —
14. 教職の実践事例
15. 教職論の再考

授業概略

[内容] [方法]

本講義では、今日に至る教師像や教育関係法規を検討することを通じて、教職の意義、教員の役割、および教員の職務内容について理解を深める。また、教職を志望する受講者がその志望について積極的な選択ができるよう、教職の実践事例についても取り上げる。基本的に、テキストおよび資料を用いた講義形式で授業をおこなう。

教科書

牧昌見、『要説教職の基礎・基本』、樹村房

参考書

小澤周三編、『教育学キーワード』(第3版)、有斐閣

成績評価の方法・基準

[評価]

学期末試験の得点を評価の全て(100%)とする。なお、私語等の性行不良の行為を止めない受講者には退室を命じ、かつ、学期末試験の受験資格を与えない。

事前準備学習

[注意]

1. 予習を前提として講義をおこなう。
2. 高等学校程度の「歴史(近現代史)」は理解しておくこと。

## 50000 教職論 b

(Studies in Teaching Profession b)

配置年次 1

単位数 2 期間 後期

担当者 渡部 芳樹

履修可能学科

E C W F N M

関連資格

教職

到達目標

[目的]

教職に就く上で不可欠である基礎知識を習得すると共に、教職に就く意義と求められる資質について理解を深めることを目指す。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 伝統的教師像—教師像の変遷 (1) —
3. 近代的教師像— (2) —
4. 求められる教員の資質— (3) —
5. 教育権と教員—法規における教員 (1) —
6. 日本国憲法と教員— (2) —
7. 専門職としての教員— (3) —
8. 公務員としての教員— (4) —
9. 教員の研修— (5) —
10. 教育改革の歩み—新たな教育課題と教員 (1) —
11. 説明責任— (2) —
12. 情報化への対応— (3) —
13. 国際化への対応— (4) —
14. 教職の実践事例
15. 教職論の再考

授業概略

[内容] [方法]

本講義では、今日に至る教師像や教育関係法規を検討することを通じて、教職の意義、教員の役割、および教員の職務内容について理解を深める。また、教職を志望する受講者がその志望について積極的な選択ができるよう、教職の実践事例についても取り上げる。基本的に、テキストおよび資料を用いた講義形式で授業をおこなう。

教科書

牧昌見、『要説教職の基礎・基本』、樹村房

参考書

小澤周三編、『教育学キーワード』(第3版)、有斐閣

成績評価の方法・基準

[評価]

学期末試験の得点を評価の全て(100%)とする。なお、私語等の性行不良の行為を止めない受講者には退室を命じ、かつ、学期末試験の受験資格を与えない。

事前準備学習

[注意]

1. 予習を前提として講義をおこなう。
2. 高等学校程度の「歴史(近現代史)」は理解しておくこと。

## 50001 教育原理 a

(Principles of Education a)

配置年次 2

単位数 2 期間 前期

担当者 結城 敏也

履修可能学科

E C W F

関連資格

教職 社教 学芸

到達目標

「教育」がどのように発展して、現在の教育制度ができたかということの概略を理解する。人間理解に基づいた教授ができるようにする。

授業計画

1. 教育とは何か? 概括
2. 教育と教育学
3. 教育はいつから始まるのか
4. 西欧古典古代の教育  
教育の2類型 アテネの教育とスパルタの教育
5. 教育における主体とは何か  
ソクラテスと無知の知「引き出すこと」としての教育

共通

E

Pe

Pc

C

生活基礎

W

F

看護基礎

N

経営基礎

M

卒業

6. ルネッサンス・宗教改革・啓蒙主義
7. 教育理念の基礎設定 鞭と暗記からの脱却
8. コメニウスと普通教育の理念
9. 近代人権思想と教育理念  
自由・平等そして教育を受ける権利
10. 義務教育とは- 国民国家の登場と義務教育の発生
11. 義務教育制度の普及と破綻
12. 幼児教育とは- フレーベルと「幼稚園」
13. オルターナティブ・エデュケーション  
「新教育運動」とその影響
14. 近代民主主義社会での教育の意義  
学歴社会とその問題
15. 教育の現況・総括

#### 授業概略

教師となって実際の教育現場に入ると、いろいろな問題にぶつかることになる。しかし、そのような問題の多くには、過去の教育実践の中でも発生し、様々な教育者が解決を求めて苦闘してきた歴史がある。教育における問題について知ることなく直面するとなると、途方に暮れてしまうことになるだろう。たとえば、現代社会においても、高等教育の一般化と、社会の学歴社会化、「入学試験」による教育の奇形化、教養の低下、授業不成立、モンスターペアレントなどの諸問題が垣間見られている。このような問題について合意された一般的解放は存在していない。教育の歴史は、社会の変化と教育実践を通して引き起こされる様々な問題を解決しようと努力してきた教師達の歴史と言うことも出来る。何かの問題の直面したとき、同じような問題と対決してきた過去の教師達の努力を顧みること、解決についての糸口を見つけることができるかもしれない。この講義では、教育に関する基本的概念の習得を目標とする。教育についての基本的概念がどのような状況で、何を目的として生まれ、どのような実践を通して現在の教育の枠組みを生み出してきたのか。これから教育に従事するために必要な基本的な教育についての理解を育むことが講義のテーマである。

#### 教科書

基本的な資料は配布、あるいはIC-UNIPAに掲示

#### 参考書

講義内容に直接関係する参考書籍は講義中に随時指示する  
「教職教養教育原理これだけは暗記しよう」(教員採用試験情報研究会)  
廣川洋一郎 「ギリシア人の教育」 岩波新書 1990  
J.P. マファフィー 「古代ギリシアの教育」 八潮出版社 1996  
宮崎市定 「科挙 - 中国の試験地獄」 中公新書 1963/中公文庫BIBLIO 2003  
澤井繁男 「イタリア・ルネサンス」 講談社現代新書 2001  
中谷彪・伊藤良高編著 「歴史の中の教育 教育史年表」 教育開発研究所 2003  
玉川大学出版部 「西欧の教育思想シリーズ」 教育の発見双書  
中内敏夫他 「教育 - 誕生と終焉」 藤原書店  
尾崎ムゲン 「日本の教育改革」 中公新書  
小澤周三他 「教育思想史」 有斐閣Sシリーズ 有斐閣  
平野一郎他 「西欧教育思想史」 黎明書房

#### 成績評価の方法・基準

授業中に与える課題レポートおよびテスト

#### 事前準備学習

高校程度の常識的な世界史の流れを理解していることを前提とする。(詳細な年号とか、事件名の記憶までは要求しない) 中学・高校などの世界史教科書を通読し、歴史の流れを把握しておくことが必要。

## 50001 教育原理 b

(Principles of Education b)

配置年次 2  
単位数 2 期間 前期  
担当者 小川 哲哉  
履修可能学科  
E C W F

#### 関連資格

教職 社教 学芸

#### 到達目標

教育的思考と行動の基本的意味を論究し、学校教育全体を体系づける「目的、内容、方法」という教育行為の三要素を取り上げ、教育現場における教師の教育的指導のメカニズムを理解できるようにする。

#### 授業計画

- (1) 教育行為とは何か
- (2) 「論」としての教育
- (3) 「思想」としての教育
- (4) 「科学」としての教育
- (5) 教育学導入とわが国の教育
- (6) 形式的導入としての近代教育
- (7) 教育勅語体制と学校教育
- (8) 戦後教育の特質と問題点
- (9) 教育基本法における教育目的論
- (10) 人格概念の特質と問題点
- (11) 人格概念と個性尊重教育
- (12) 教育的常識の変容問題
- (13) 「教師-生徒」関係の変容問題
- (14) 教師教育と教師像
- (15) 総括とまとめ

#### 授業概略

この授業は、教育行為の「本質的」の意味を、学校教育実践に即して考察するものである。教育行為には人間の日常的行動と異なる特別な構造がある。その特徴を理解するため、授業ではまず「教育的思考と行動の意味」を論究する。そうした論究に基づいて、現代教育の現状と教職をめぐる諸問題を考えてみたい。

#### 教科書

教科書：小川哲哉他編著『現代教育の諸相』青簡舎、2010年（授業が始まるまでに各自購入すること！）。

#### 参考書

授業の中で適宜紹介する。

#### 成績評価の方法・基準

成績は小テスト等（20%）、定期試験（80%）で判断する。

#### 事前準備学習

これまで受けてきた教育的経験や体験の意味を振り返って、自己の教育観の変遷を捉え直してほしい。

## 50001 教育原理 c

(Principles of Education c)

配置年次 2  
単位数 2 期間 前期  
担当者 小川 哲哉  
履修可能学科  
E C W F

#### 関連資格

教職 社教 学芸

#### 到達目標

教育的思考と行動の基本的意味を論究し、学校教育全体を体系づける「目的、内容、方法」という教育行為の三要素を取り上げ、教育現場における教師の教育的指導のメカニズムを理解できるようにする。

#### 授業計画

- (1) 教育行為とは何か

- (2) 「論」としての教育
- (3) 「思想」としての教育
- (4) 「科学」としての教育
- (5) 教育学導入とわが国の教育
- (6) 形式的導入としての近代教育
- (7) 教育勅語体制と学校教育
- (8) 戦後教育の特質と問題点
- (9) 教育基本法における教育目的論
- (10) 人格概念の特質と問題点
- (11) 人格概念と個性尊重教育
- (12) 教育的常識の変容問題
- (13) 「教師-生徒」関係の変容問題
- (14) 教師教育と教師像
- (15) 総括とまとめ

**授業概略**

この授業は、教育行為の「本質的」の意味を、学校教育実践に即して考察するものである。教育行為には人間の日常的行動と異なる特別な構造がある。その特徴を理解するため、授業ではまず「教育的思考と行動の意味」を論究する。そうした論究に基づいて、現代教育の現状と教職をめぐる諸問題を考えてみたい。

**教科書**

教科書：小川哲哉他編著『現代教育の諸相』青簡舎、2010年（授業が始まるまでに各自購入すること！）。

**参考書**

授業の中で適宜紹介する。

**成績評価の方法・基準**

成績は小テスト等（20%）、定期試験（80%）で判断する。

**事前準備学習**

これまで受けてきた教育的経験や体験の意味を振り返って、自己の教育観の変遷を捉え直してほしい。

**50002 教育心理学 a**  
(Educational Psychology a)

配置年次 2

単位数 2 期間 前期

担当者 立木 徹

履修可能学科

E C W F

関連資格

教職 心理

到達目標

授業がわからない子どもの心理を理解することができ、どのような授業をすることが重要なのかを考えられるようになる。

授業計画

- 1、人の発達と学習
- 2、子どもはどのように学習するか
- 3、愛とユーモアのある授業（\_ \_）
- 4、授業実践記録の分析
- 5、学習の動機づけ
- 6、子どもの誤った自然認識
- 7、深くて高いレベルの自然認識を形成する
- 8、子どもの誤った社会認識
- 9、深くて高いレベルの社会認識を形成する
- 10、子どもの文学作品の理解
- 11、知識の構造化
- 12、知識と情感の関わり
- 13、障害のある子どもの発達
- 14、障害のある子どもの学習支援
- 15、まとめ

授業概略

発達、学習、動機付けについて説明する。子どもの自然、社会認識について心理学的観点から説明する。

知識の構造化、感情との結びつきについて説明する。

教科書

教科書はとくにありません。

参考書

必要に応じて指定する。

成績評価の方法・基準

レポート内容によって評価する。

事前準備学習

前回までの講義の内容を思い出して自分の体験と関連づけながら、疑問や考えをまとめることが大切です。

**50002 教育心理学 b**  
(Educational Psychology b)

配置年次 2

単位数 2 期間 前期

担当者 立木 徹

履修可能学科

E C W F

関連資格

教職 心理

到達目標

授業がわからない子どもの心理を理解することができ、どのような授業をすることが重要なのかを考えられるようになる。

授業計画

- 1、人の発達と学習
- 2、子どもはどのように学習するか
- 3、愛とユーモアのある授業（\_ \_）
- 4、授業実践記録の分析
- 5、学習の動機づけ
- 6、子どもの誤った自然認識
- 7、深くて高いレベルの自然認識を形成する
- 8、子どもの誤った社会認識
- 9、深くて高いレベルの社会認識を形成する
- 10、子どもの文学作品の理解
- 11、知識の構造化
- 12、知識と情感の関わり
- 13、障害のある子どもの発達
- 14、障害のある子どもの学習支援
- 15、まとめ

授業概略

発達、学習、動機付けについて説明する。子どもの自然、社会認識について心理学的観点から説明する。知識の構造化、感情との結びつきについて説明する。

教科書

教科書はとくにありません。

参考書

必要に応じて指定する。

成績評価の方法・基準

レポート内容によって評価する。

事前準備学習

前回までの講義の内容を思い出して自分の体験と関連づけながら、疑問や考えをまとめることが大切です。

**50002 教育心理学 c**  
(Educational Psychology c)

配置年次 2

単位数 2 期間 後期

担当者 小野 美和

履修可能学科

E C W F

関連資格

教職 心理

共通

E

Pe

Pc

C

生活基礎

W

F

看護基礎

N

経営基礎

M

卒業

## 到達目標

- (1) 児童・生徒の心の発達を知ると同時に、近年の教育問題について自分自身の考えをもつことができる。
- (2) 児童・生徒の心理への理解を深め、児童・生徒に関わる際の支援・教育的視野を身につける。
- (3) 児童・生徒における学級集団、学校の重要性とその機能について学び、特にいじめや不登校問題について心理学的な観点から考えることができる。
- (4) 障害をもつ児童・生徒における対人関係の特徴や課題を知り、教育的支援の理論的基盤を身につける。

## 授業計画

- 【第01回】教育心理学とは何か…この授業の進め方、内容について説明し、教育心理学の概要についてイントロダクションを行います。
- 【第02回】発達を考える(1)…発達理論(遺伝と環境)、エリクソンの発達課題について扱います。
- 【第03回】発達を考える(2)…ピアジェの認知発達理論、言葉の発達と学習について扱います。
- 【第04回】児童期を考える…現在の子どもの社会的状況や教育現場での現状を紹介する。事例等を用いて、その内容に関して感想小レポートを作成します。
- 【第05回】学級集団(1)…学級集団の特徴、機能(集団凝集性など)と教師の役割(ピグマリオン効果)について焦点を当てます。
- 【第06回】学級集団(2)…学級集団におけるクラスメイトとのコミュニケーション、対人関係に焦点を当て、社会性の発達について考えます。
- 【第07回】発達障害と対人関係…発達障害をテーマに取り上げ、その特徴を理解し、集団の中での支援の方法について理解を深めます。
- 【第08回】教育の評価と知能発達…心理学的な知能の考え方、測定方法などについて扱います。また、知的障害についても説明を行います。
- 【第09回】学校と子ども(1)…いじめをテーマにいじめの定義、いじめにおける児童・生徒の心理に関する教育・心理学的研究を紹介し、現在のいじめの特徴についての理解を深めます。
- 【第10回】学校と子ども(2)…いじめの構造、社会的背景、ネット上でのいじめについて考えます。
- 【第11回】学校と子ども(3)…不登校をテーマに取り上げ、不登校に関する心理を理解し、その支援について考えます。
- 【第12回】教育現場と子ども…ここまでの復習、まとめとして子どもと教育、学校の問題について議論を行います。
- 【第13回】青年期について考える…青年期の心理的課題、ひきこもり、ニートやフリーターの問題とキャリア教育について取り上げます。
- 【第14回】自己の発達と社会…社会や集団の中で学習し、形成される自己について説明し、これまでの授業内容についてまとめを行います。
- 【第15回】総まとめ

## 授業概略

教育心理学は、発達心理学、臨床心理学、社会心理学といった多様な分野と密接な関連を持つ領域です。従ってこの授業では、「子どもの発達」や「子どもへの教育」といった点についての心理学理論を概説します。具体的には、自己の発達(障害をもつ児童・生徒の心理発達を含みます)、友人関係の広がり、学級集団の構造と特徴、学校と子ども(不登校、いじめ、発達障害)、メディアと子どもの関係などについて講義を行います。また、実際のエピソードや事例の紹介などを取り入れながら、社会や集団の中で育つ児童・生徒の心理発達に関する理解を深めることが目的です。その中で、この授業を受講した学生の皆さんそれぞれが、子どもの教育や発達の問題について自分自身の考えを持っ

て理解するための理論的基盤を身につけることを目指します。

## 教科書

教科書は使用しません。必要に応じてプリントや参考資料等を配布します。

## 参考書

鎌原雅彦・竹網誠一郎著 「やさしい教育心理学(改訂版)」  
有斐閣 2005年

## 成績評価の方法・基準

成績評価に関しては、次の2点の総合点を「履修要覧」に掲載されている成績評価の基準にそって評価を行います。  
〔授業中・外の学習成果〕30%…授業中に作成する小レポート、授業の内容に関して課す小レポート、実習(グループワークや体験課題等)への参加内容・態度により評価します。そのため、無断欠席に関しては減点対象とします。また、提出期限に遅れた場合は、理由に関係なく減点します。  
〔学期末の学習成果〕70%…定期試験の結果により評価をします。試験の内容、形式等については授業内で発表を行います。

## 事前準備学習

本授業では、現在の子どもたちについて学びます。そのため、子どもの教育や心理、話題に関するニュース等に関心を持ち、そのテーマについて日ごろから考える習慣をつけておくことが望ましいと考えます。また、授業の中で学んだことを事後学習として復習しておくことで、次のテーマへの理解が深まります。

## 備考

授業の中で議論をする、授業テーマについて考えることがあります。積極的な参加態度を期待します。

## 50003 教育行政学 a

(Public Administration of Education a)

配置年次 2

単位数 2 期間 前期

担当者 池内 耕作

履修可能学科

E C W F

関連資格

教職 社教

到達目標

教育行政が依拠する法令・制度の内容、組織体制、運用実態、現状の課題や問題点を、様々な社会情勢を踏まえながら、適切な資料を用いて説明することができる。

授業計画

【第01回】この授業の到達目標と概略

【第02回】公教育の原理1—西洋における公教育概念の系譜—

【第03回】公教育の原理2—我が国における公教育概念の形成—

【第04回】旧・教育基本法

【第05回】新・教育基本法

【第06回】学校制度と学校体系

【第07回】学校の種類

【第08回】中央教育行政組織—文部科学省と審議会

【第09回】地方教育行政組織—教育委員会

【第10回】教育課程行政1—学習指導要領の変遷

【第11回】教育課程行政2—現行学習指導要領

【第12回】諸外国の教育行政改革1—英・仏

【第13回】諸外国の教育行政改革2—独・仏

【第14回】諸外国の教育行政改革3—中・韓

【第15回】日本の教育行政改革とこの講義のまとめ

授業概略

現在の教育を支えたり、動かしたりしている教育行政の理念や実態について、関連法令をはじめとする様々な資料に依拠して解説します。日本の教育行政を中心としますが、

その理念の原型となった西洋の公教育理念や、現在の諸外国における教育行政改革の動向についてもあわせて取り上げます。

#### 教科書

授業で使用する資料については全て配付します。

#### 参考書

購入必須ではありませんが、次の書籍は講義内容をより深く理解する上で自修することが望ましいので紹介します。  
新井郁夫・牧昌見編著『教育学基礎資料第6版』樹村房、2010年、1,470円（税込）

#### 成績評価の方法・基準

最終試験の素点を100点満点とし、無断欠席1回につき10点、無断遅刻1回につき5点を減じたものを、「履修要覧」に掲載されている成績評価の基準に当てはめて評価します。

#### 事前準備学習

可能であれば上記参考書を入手し、事前に理解を深めておくこと。

## 50003 教育行政学 b (Public Administration of Education b)

配置年次 2

単位数 2 期間 前期

担当者 池内 耕作

履修可能学科

E C W F

関連資格

教職 社教

到達目標

教育行政が依拠する法令・制度の内容、組織体制、運用実態、現状の課題や問題点を、様々な社会情勢を踏まえながら、適切な資料を用いて説明することができる。

授業計画

- 【第01回】この授業の到達目標と概略
- 【第02回】公教育の原理1—西洋における公教育概念の系譜—
- 【第03回】公教育の原理2—我が国における公教育概念の形成—
- 【第04回】旧・教育基本法
- 【第05回】新・教育基本法
- 【第06回】学校制度と学校体系
- 【第07回】学校の種類
- 【第08回】中央教育行政組織—文部科学省と審議会
- 【第09回】地方教育行政組織—教育委員会
- 【第10回】教育課程行政1—学習指導要領の変遷
- 【第11回】教育課程行政2—現行学習指導要領
- 【第12回】諸外国の教育行政改革1—英・仏
- 【第13回】諸外国の教育行政改革2—独・仏
- 【第14回】諸外国の教育行政改革3—中・韓
- 【第15回】日本の教育行政改革とこの講義のまとめ

授業概略

現在の教育を支えたり、動かしたりしている教育行政の理念や実態について、関連法令をはじめとする様々な資料に依拠して解説します。日本の教育行政を中心としますが、その理念の原型となった西洋の公教育理念や、現在の諸外国における教育行政改革の動向についてもあわせて取り上げます。

教科書

授業で使用する資料については全て配付します。

参考書

購入必須ではありませんが、次の書籍は講義内容をより深く理解する上で自修することが望ましいので紹介します。  
新井郁夫・牧昌見編著『教育学基礎資料第6版』樹村房、2010年、1,470円（税込）

成績評価の方法・基準

最終試験の素点を100点満点とし、無断欠席1回につき10

点、無断遅刻1回につき5点を減じたものを、「履修要覧」に掲載されている成績評価の基準に当てはめて評価します。

事前準備学習

可能であれば上記参考書を入手し、事前に理解を深めておくこと。

## 50003 教育行政学 c (Public Administration of Education c)

配置年次 2

単位数 2 期間 後期

担当者 池内 耕作

履修可能学科

E C W F

関連資格

教職 社教

到達目標

教育行政が依拠する法令・制度の内容、組織体制、運用実態、現状の課題や問題点を、様々な社会情勢を踏まえながら、適切な資料を用いて説明することができる。

授業計画

- 【第01回】この授業の到達目標と概略
- 【第02回】公教育の原理1—西洋における公教育概念の系譜—
- 【第03回】公教育の原理2—我が国における公教育概念の形成—
- 【第04回】旧・教育基本法
- 【第05回】新・教育基本法
- 【第06回】学校制度と学校体系
- 【第07回】学校の種類
- 【第08回】中央教育行政組織—文部科学省と審議会
- 【第09回】地方教育行政組織—教育委員会
- 【第10回】教育課程行政1—学習指導要領の変遷
- 【第11回】教育課程行政2—現行学習指導要領
- 【第12回】諸外国の教育行政改革1—英・仏
- 【第13回】諸外国の教育行政改革2—独・仏
- 【第14回】諸外国の教育行政改革3—中・韓
- 【第15回】日本の教育行政改革とこの講義のまとめ

授業概略

現在の教育を支えたり、動かしたりしている教育行政の理念や実態について、関連法令をはじめとする様々な資料に依拠して解説します。日本の教育行政を中心としますが、その理念の原型となった西洋の公教育理念や、現在の諸外国における教育行政改革の動向についてもあわせて取り上げます。

教科書

授業で使用する資料については全て配付します。

参考書

購入必須ではありませんが、次の書籍は講義内容をより深く理解する上で自修することが望ましいので紹介します。  
新井郁夫・牧昌見編著『教育学基礎資料第6版』樹村房、2010年、1,470円（税込）

成績評価の方法・基準

最終試験の素点を100点満点とし、無断欠席1回につき10点、無断遅刻1回につき5点を減じたものを、「履修要覧」に掲載されている成績評価の基準に当てはめて評価します。

事前準備学習

可能であれば上記参考書を入手し、事前に理解を深めておくこと。

## 50003 教育行政学 d (Public Administration of Education d)

配置年次 2

単位数 2 期間 後期

担当者 池内 耕作

共通

E

Pe

Pc

C

生活基礎

W

F

看護基礎

N

経営基礎

M

卒業

## 履修可能学科

E C W F

## 関連資格

教職 社教

## 到達目標

教育行政が依拠する法令・制度の内容、組織体制、運用実態、現状の課題や問題点を、様々な社会情勢を踏まえながら、適切な資料を用いて説明することができる。

## 授業計画

- 【第01回】この授業の到達目標と概略
- 【第02回】公教育の原理1－西洋における公教育概念の系譜－
- 【第03回】公教育の原理2－我が国における公教育概念の形成－
- 【第04回】旧・教育基本法
- 【第05回】新・教育基本法
- 【第06回】学校制度と学校体系
- 【第07回】学校の種類
- 【第08回】中央教育行政組織－文部科学省と審議会
- 【第09回】地方教育行政組織－教育委員会
- 【第10回】教育課程行政1－学習指導要領の変遷
- 【第11回】教育課程行政2－現行学習指導要領
- 【第12回】諸外国の教育行政改革1－英・仏
- 【第13回】諸外国の教育行政改革2－独・韓
- 【第14回】諸外国の教育行政改革3－中・韓
- 【第15回】日本の教育行政改革とこの講義のまとめ

## 授業概略

現在の教育を支えたり、動かしたりしている教育行政の理念や実態について、関連法令をはじめとする様々な資料に依拠して解説します。日本の教育行政を中心としますが、その理念の原型となった西洋の公教育理念や、現在の諸外国における教育行政改革の動向についてもあわせて取り上げます。

## 教科書

授業で使用する資料については全て配付します。

## 参考書

購入必須ではありませんが、次の書籍は講義内容をより深く理解する上で自修することが望ましいので紹介します。新井郁夫・牧昌見編著『教育学基礎資料第6版』樹村房、2010年、1,470円（税込）

## 成績評価の方法・基準

最終試験の素点を100点満点とし、無断欠席1回につき10点、無断遅刻1回につき5点を減じたものを、「履修要覧」に掲載されている成績評価の基準に当てはめて評価します。

## 事前準備学習

可能であれば上記参考書を入手し、事前に理解を深めておくこと。

## 50004 英語科教育法Ⅰ

(Teaching of English I)

配置年次 3

単位数 2 期間 前期

担当者 上野 尚美

## 履修可能学科

E

## 関連資格

教職

## 到達目標

現在の日本の中学校および高等学校における英語教育に寄与できるよう、英語教育の諸理論・概念を理解し、その理解の上に立ち、英語科授業を設計するための知識と技能を修得することができる。

## 授業計画

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 日本の英語教育の歴史的経緯

第3回 世界の英語教育

第4回 主な指導法1

第5回 主な指導法2

第6回 主な指導法3

第7回 主な指導法4

第8回 主な指導法5

第9回 主な指導法6

第10回 主な指導法7

第11回 指導法の変遷1

第12回 指導法の変遷2

第13回 指導法の変遷3

第14回 指導法の変遷4

第15回 復習および総まとめ

## 授業概略

『英語科教育法Ⅱ・Ⅲ』が実践面を扱うのに対し、『英語科教育法Ⅰ』では主として英語科教育の理論面を扱いますが、その理論に基づいた指導法を実践しているDVD等を観ることにより、さらに理解を深めるような指導もします。

## 教科書

高梨庸雄・高橋正夫著『新・英語教育学概論』（金星堂）

『New Horizon English Course 1-3』（東京書籍）

『中学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』（開隆堂）

『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』（開隆堂）

## 参考書

『小学校学習指導要領 外国語活動編（大型本）』（東洋出版社）

## 成績評価の方法・基準

クイズ、課題、試験等を総合して評価します。

## 事前準備学習

遅刻や欠席に関しては厳しくチェックします。正当な理由のない遅刻や欠席は厳禁です。

## 50005 英語科教育法Ⅱ

(Teaching of English II)

配置年次 3

単位数 2 期間 前期

担当者 長澤 邦紘

## 履修可能学科

E

## 関連資格

教職

## 到達目標

1. 中学校、高等学校の英語授業において「聞く」「話す」「読む」「書く」活動をおこなう場合の指導原理を理解し、その上でそれらを指導するための教材を作成し、発表することができる。
2. 中学校・高等学校の教科書に出てくる単語や文を正しく音読することができる。
3. 中学校・高等学校の教科書で扱う基本的な文法事項を説明することができる。
3. 英語の句読法を理解し、使用することができる。
4. 観点別評価の枠組みを理解することができる。
5. コミュニケーション能力を測定するテスト問題を作成することができる。

## 授業計画

1. オリエンテーション；日本の英語教育の背景
2. 学習指導要領に定める「聞く」「話す」「読む」「書く」活動の内容
3. 「聞く」ことの指導（1）
4. 「聞く」ことの指導（2）
5. 「話す」ことの指導（1）
6. 「話す」ことの指導（2）
7. 「読む」ことの指導（1）
8. 「読む」ことの指導（2）

9. 「書く」ことの指導（1）
10. 「書く」ことの指導（2）
11. コミュニケーション能力の定義
12. コミュニケーション能力の評価法
13. コミュニケーション能力を測定するためのテスト例
14. テスト問題作成・発表
15. 授業のまとめ

#### 授業概略

この授業では日本の中学校・高等学校の英語科の授業で扱う内容を「聞く」「話す」「読む」「書く」の4つの技能面からとらえ、その指導の原理的方針と授業の実践を考えていく。授業の基本線は、授業担当者が4技能の指導の原則を実例をもって説明し、(必要に応じて実演し)、その後、受講生が自ら考案した活動例を使ってマイクロ・ティーチング形式でプレゼンテーションをおこなう。基本的な発音記号の音声化、単語、文、文章の音読などについては特別に時間をとって指導をおこなう。

#### 教科書

中学校教科書 New Horizon English Courses 1-3（東京書籍）  
 高等学校教科書（英語 I） Power On（東京書籍）

#### 参考書

Jeremy Harmer, The Practice of English Language Teaching (Longman).

#### 成績評価の方法・基準

- (1) 発音記号の音声化テスト（子音、母音の60%を正しく発音できれば「B」評価）
- (2) 単語・文・文章の音読テスト
- (3) 4技能別のマイクロ・ティーチング
- (4) 講義内容についての小テスト
- (5) テスト問題作成（オリジナル作品であれば最低「B」評価）
- (6) 英語で書く授業のまとめ（一定時間内に一定量書ければ少なくとも「B」評価）「B」評価が得られる最低基準を示しました。それよりすぐれた点があれば「A」評価です。

#### 事前準備学習

- (1) 音読テストの準備
- (2) マイクロ・ティーチングのプレゼンテーションの準備
- (3) マイクロ・ティーチングの発表をしない者はレポートを作成提出

### 50006 英語科教育法Ⅲ (Teaching of English III)

配置年次 3

単位数 2 期間 前期

担当者 相原 和恵

履修可能学科

E

関連資格

教職

到達目標

中学校及び高等学校の英語教師として身につけておくべき基礎知識と標準的な授業を立案及び展開する際に必要な知識と技能を習得することができる。

授業計画

- 【第1回】 授業ガイダンス、英語教育と英語科教育
- 【第2回】 目的論
- 【第3回】 評価論
- 【第4回】 言語スキルと指導技術
- 【第5回】 授業論
- 【第6回】 外国語学習者の心理
- 【第7回】 国際理解教育
- 【第8回】 早期英語教育

【第9回】 教師論

【第10回】 教育実習

【第11回】 指導法と教材・教具の研究

【第12回】 指導法と教材・教具の研究

【第13回】 指導法と教材・教具の研究

【第14回】 指導法と教材・教具の研究

【第15回】 復習及び総まとめ

#### 授業概略

テキストと学習指導要領を読みながら、中学校及び高等学校の英語教師として身につけておくべき基礎知識を学びます。また、中学校と高等学校の英語教科書から指導内容の具体例をいくつか抽出し、その指導法と教材・教具の研究（学習指導案の作成・補助教材作成・マイクロティーチング等）を行いながら、実践的な技能を習得していきます。

#### 教科書

高梨庸雄・高橋正夫著 『新・英語教育学概論』 金星堂 2009年

#### 参考書

文部科学省『中学校学習指導要領』  
 中学校英語教科書『New Horizon English Course 1-3』

#### 成績評価の方法・基準

発表（マイクロティーチング・プレゼンテーション・授業中の発表等）、提出物（レポート・補助教材・学習指導案等）、試験（小テストを含む）を総合的に評価します。

#### 事前準備学習

なし

#### 備考

毎回授業のはじめに小テストを実施しますので、遅刻は厳禁です。

### 50007 福祉科教育法 (Teaching of Social Welfare)

配置年次 3

単位数 4 期間 通年

担当者 望月 珠美、山本 哲也

履修可能学科

W

関連資格

教職

到達目標

社会福祉に関する専門知識と技術を土台として、高等学校教育において「福祉」を学びとして展開していくために必要となる教育法に関する知識と技術の獲得をめざします。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 福祉教育とは何か
3. 福祉教育と教科「福祉」
4. 教科としてのねらいとその背景
5. 学習指導要領の位置づけと活用
6. 新しい学習指導要領のねらい
7. 教科「福祉」をめぐる実際
8. 教科「福祉」を学ぶ生徒像
9. 教科「福祉」の構成1（全体構成）
10. 教科「福祉」の構成2（各科目と関係性）
11. 学習指導計画の位置づけ
12. 学習指導案の立案1（構造的理解）
13. 学習指導案の立案2（教材研究の進め方）
14. 教材研究の実際
15. まとめ
16. 教育現場の実際（外部講師による講話）
17. 各科目特性の理解1（社会福祉基礎）
18. 各科目特性の理解2（介護福祉基礎）
19. 各科目特性の理解3（コミュニケーション技術）
20. 各科目特性の理解4（生活支援技術）
21. 各科目特性の理解5（介護過程）

22. 各科目特性の理解6 (演習)
23. 各科目特性の理解7 (実習)
24. 各科目特性の理解8 (老化、障害、心理)
25. 各科目特性の理解9 (福祉情報)
26. 学習指導計画の作成1
27. 学習指導計画の作成2
28. 学習指導計画の作成3
29. 評価をめぐる考え方と実際
30. 総まとめ

#### 授業概略

新旧学習指導要領を題材として高校福祉科設置の背景とともに教科「福祉」および各科目のねらいを理解するとともに、教育方法に関する具体的な知識と技術の獲得をめざすことをねらいとします。

#### 教科書

文部科学省『高等学校学習指導要領解説一福祉編一』、最新版、実教出版  
桐原宏行編著『福祉科教育法』、2004年、三和書籍

#### 参考書

なし

#### 成績評価の方法・基準

講義への参加態度（発言回数やその内容、課題への取り組み）とともに学期末試験もしくはレポートの結果から総合的に評価します。

#### 事前準備学習

事前準備として、指定教科書を用いて授業に関連する事項について書かれた箇所を通読していただくこととします。

#### 備考

外部講師を招聘しての講義にあたっては、実施時間が通常の授業実施帯とは異なる場合があります。詳細については、受講生の意向を確認した上で決定します。

## 50008 社会科教育法 (Teaching of Social Studies)

配置年次 3

単位数 2 期間 後期

担当者 斎藤 聖二

履修可能学科

C W

関連資格

教職

到達目標

中学校社会科教育法の実践的学習を通じて教育法を体得する

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 中学校で教えることの意味
- 3 学習指導要領について
- 4 授業作りのためにa 年間計画・指導案の作成
- 5 授業作りのためにb 授業の目標と展開方法
- 6 授業作りのためにc テストと宿題などについて
- 7 成績評価とその注意点、問題点
- 8 模擬授業、討議、指導a
- 9 模擬授業、討議、指導b
- 10 模擬授業、討議、指導c
- 11 模擬授業、討議、指導d
- 12 模擬授業、討議、指導e
- 13 模擬授業、討議、指導f
- 14 模擬授業、討議、指導g
- 15 模擬授業、討議、指導h

授業概略

中学校社会科教育の内容を把握し、どのような方法で授業が展開されているかを理解する。また、みずからが模擬授業をすることを通じて、授業の構想を練り、目標達成のプロセスを理解し、「良い授業」の意味を知って、それを実

践できるための方法を見出す。それらと並行して、現在の中学校の授業の抱える問題点などを調べ、履修者間で考えていく。

教科書

中学校の教科書（こちらで用意します）

参考書

学習指導要領

成績評価の方法・基準

出席、指導案・板書案と模擬授業の内容、討議内容

事前準備学習

なし

## 50009 社会科・地理歴史科教育法 (Teaching of Social Studies / Geography and History)

配置年次 3

単位数 4 期間 通年

担当者 斎藤 聖二

履修可能学科

C

関連資格

教職

到達目標

中学校社会科、高等学校地歴科教育法の実践的学習を通じて、その教育法を体得する

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 社会科、地歴科とは1
- 3 社会科、地歴科とは2
- 4 授業をするということについて
- 5 指導案作りの方法、その他解説
- 6 学習指導要領について
- 7 年間計画と目標の設定
- 8 模擬授業と学生による講評、指導a
- 9 模擬授業と学生による講評、指導b
- 10 模擬授業と学生による講評、指導c
- 11 模擬授業と学生による講評、指導d
- 12 模擬授業と学生による講評、指導e
- 13 模擬授業と学生による講評、指導f
- 14 模擬授業と学生による講評、指導g
- 15 まとめ
- 1 後期オリエンテーション
- 2 前期の模擬授業についての反省と討議
- 3 模擬授業と学生による講評、指導a
- 4 模擬授業と学生による講評、指導b
- 5 模擬授業と学生による講評、指導c
- 6 模擬授業と学生による講評、指導d
- 7 模擬授業と学生による講評、指導e
- 8 模擬授業と学生による講評、指導f
- 9 模擬授業と学生による講評、指導g
- 10 模擬授業と学生による講評、指導h
- 11 模擬授業と学生による講評、指導i
- 12 模擬授業と学生による講評、指導j
- 13 模擬授業と学生による講評、指導k
- 14 模擬授業と学生による講評、指導l
- 15 まとめ

授業概略

社会科・地歴科授業の目標設定の仕方とそれに沿った授業の作り方を身につける。そのために、適切な教案作りとそれによる模擬授業の実践を繰り返しおこなう。また、互いに模擬授業を講評しあい、みずからの授業作りに生かす道を考える。これらを通じて教師になるということの意味を考え、どのように生徒たちを学ばせれば「良い」のかを理解していく。履修者の教師観、授業観、教育観の育成をはかる意図のもとに授業を進める。

## 教科書

中学校の教科書（こちらで用意します）

## 参考書

学習指導要領

## 成績評価の方法・基準

出席、指導案・板書案と模擬授業の内容、講評・討議内容  
事前準備学習

なし

## 50010 社会科・公民科教育法 (Teaching of Social Studies / Civics)

配置年次 3

単位数 4 期間 通年

担当者 鈴木 邦男

## 履修可能学科

W

## 関連資格

教職

## 到達目標

中学校及び高校社会科の学習指導要領をもとに、中学校公民的分野及び高校公民科の指導内容と学習指導の基本を把握させ、教科書をもとに教材研究のあり方と学習指導案作成ができる。

## 授業計画

- 1～4 中学校・高校社会科の学習指導要領の内容
- 5～9 中学校公民的分野・高校公民科の目標及び内容
  - (1) 公民的分野・公民科の指導内容と要点
  - (2) 公民的な見方や考え方を育てる学習指導
  - (3) 公民的分野の作業的・体験的な学習指導
- 10～13 高校公民科教科書「現代社会」の指導内容と学習指導
- 14～16 中学校公民的分野教科書の指導内容
- 17～20 公民的分野・公民科の指導計画の作成
  - (1) 指導項目の分析
  - (2) 指導計画作成と指導の基本型
- 21～25 中学校3年「基本的人権の尊重」の指導案作成
  - (1) 人権を考える
  - (2) 人権の歴史
  - (3) 日本国憲法と人権
  - (4) 基本的人権と個人の尊厳
- 26～30 模擬授業及び学習指導法のまとめ

## 授業概略

中学校社会科・高校公民科の指導要領の目標及び指導内容を調べ、高校教科書「現代社会」の指導内容の分析と指導法、中学校3年公民的分野の「基本的人権の尊重」の単元指導計画及び指導案作成と模擬授業を行う。

## 教科書

文部科学省 「中学校学習指導要領（社会科編）」

文部科学省 「高等学校学習指導要領（公民編）」

## 参考書

中学校公民的分野の教科書

高等学校現代社会科の教科書

## 成績評価の方法・基準

テスト、指導案作成、模擬授業、出席状況等をもとに総合評価する。

## 事前準備学習

指導案は、パソコン使用での作成になるので、パソコンに慣れておくといよい。

## 50011 家庭科教育法 I (Teaching of Home Economics I)

配置年次 2

単位数 2 期間 前期

担当者 扇澤 美千子

## 履修可能学科

F

## 関連資格

教職

## 到達目標

- ・移行措置の概要を知るとともに、中学校家庭分野の目標と内容に関して理解する
- ・教育課程における家庭科の意義を確認し、学習指導に必要な事項についての理解を深める
- ・生活と技術とのかかわりについて理解を深める

## 授業計画

1. 中学校技術・家庭科の変遷
2. 教育課程の意義及び編成の方法
3. 改訂の基本方針と改訂のポイント
4. 移行措置の概要
5. 「技術・家庭科」の目標
6. 家庭分野の目標
7. 家庭分野の内容解説
8. 高等学校家庭科との関連
9. 指導計画の作成
10. 内容の取扱いと指導上の留意点
11. 学習指導のポイント
12. 評価の方法
13. 家庭科と総合的な学習の時間との関連
14. 楽しく役立つ家庭科の授業とは
15. 生きる力を育む家庭科の授業

## 授業概略

中学校学習指導要領は改訂され、平成21年度から3年の移行期間が設定された。今回の改訂では「生きる力」を一知・徳・体のバランスのとれた力—ととらえ、「確かな学力・豊かな心・健やかな体の調和」を目指す学習活動が重視されている。そのために、基礎的・基本的な知識及び技能を習得し、これらの活用を図る学習活動を通して、思考力、判断力、表現力、その基盤となる言語に関する能力を育む「体験的な学習や問題解決的な学習」が求められている。中学校技術・家庭科では、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる事を目標としている。本講義では、移行措置の概要を知るとともに、中学校家庭分野の目標と内容に関して解説し、より良い家庭科の授業のあり方を考えていく。教育課程における家庭科の意義を確認し、さらに、学習指導に必要な事項についての理解を深めていく。

## 教科書

『中学校学習指導要領解説（技術・家庭編）』

『中学校技術・家庭科 家庭分野教科書』

## 参考書

必要に応じて指示する

## 成績評価の方法・基準

授業・発表態度、出席状況、レポート、試験等により評価する

## 事前準備学習

必要に応じて指示する

## 50012 家庭科教育法 II (Teaching of Home Economics II)

配置年次 2

単位数 2 期間 後期

担当者 扇澤 美千子

## 履修可能学科

F

## 関連資格

教職

## 到達目標

- ・実践的・体験的学習の重要性や、生活に関する課題について理解する

共通

E

Pe

Pc

C

生活基礎

W

F

看護基礎

N

経営基礎

M

卒業

- ・課題解決を図る能力を育成するための指導法や学習環境の整備の方法を知る
- ・年間指導計画と指導案作成・教材研究・プレゼンテーションの重要性・評価の観点などを学ぶ

#### 授業計画

1. 中学校技術・家庭の教育目標の特徴
2. 教育課程改訂のポイント
3. 家庭分野の目標と内容構成
4. 小学校・家庭との体系化
5. 課題の実践的・体験的学習
6. 学習環境の安全管理と衛生管理
7. 指導計画と内容の取扱い
8. 指導案の作成
9. 題材設定の重要性
10. 学習指導法について
11. 授業展開と学習形態
12. 評価の観点
13. 教材研究とプレゼンテーション
14. 総合的な学習と家庭科
15. 生活の自立をめざして

#### 授業概略

家庭科教育は生活の自立に必要な衣食住に関する基礎的な知識を習得し、生きる力を育み、生活の質の向上を目指す科目として非常に重要です。ここでは、衣食住、消費生活、環境等に関する実践的・体験的学習の重要性や、家庭の機能についてなど生活に関する種々の課題について理解し、さらにその課題解決を図る能力を育成するための指導法や学習環境の整備の方法を学びます。

さらに、生活を創造する能力と実践的な態度を育てるために設けられた学習項目についてその内容を吟味し、言語活動の充実をはかるなど実際の授業でどう指導していくかを検討していきます。年間指導計画と指導案の作成・教材研究・プレゼンテーションの重要性・評価の観点なども取り上げます。

#### 教科書

『中学校学習指導要領解説（技術・家庭編）』

『中学校技術・家庭科 家庭分野教科書』

#### 参考書

必要に応じて指示する

#### 成績評価の方法・基準

授業・発表態度、レポート、出席状況、試験等により総合的に評価する

#### 事前準備学習

必要に応じて指示する

## 50013 家庭科教育法Ⅲ (Teaching of Home Economics III)

配置年次 3

単位数 2 期間 前期

担当者 扇澤 美千子

履修可能学科

F

関連資格

教職

到達目標

- ・高等学校における家庭科教育の変遷と意義、目標、指導要領の改訂等について知る
- ・教科の構成と履修方法、各科目のねらいと内容、指導のポイントを知る
- ・授業のあり方、評価の方法について学ぶ

#### 授業計画

1. 高等学校家庭科教育の変遷
2. 教育課程の意義及び編成の方法
3. 基本方針と改訂のポイント
4. 家庭分野改訂のねらい

5. 「家庭科」の目標
6. 普通教科「家庭」及び専門教科「家庭」
7. 内容解説
8. 中学校家庭科との関連
9. 指導計画の作成
10. 内容の取扱いと指導上の留意点
11. 学習指導のポイント
12. 評価の方法
13. 家庭科と他教科との関連
14. 新学習指導要領について
15. 自立した生活を目指して

#### 授業概略

高等学校における家庭科教育では、男女ともに自立した生活者として必要な基礎教養を獲得すること、生活文化の継承、生活力を育てる主体作りをすることを目指しています。ここでは、高等学校における家庭科教育の変遷と意義、目標、指導要領の改訂等について解説し、中学校家庭科教育の内容を踏まえながら普通教科「家庭」（家庭基礎、家庭総合、生活技術）及び専門教科「家庭」（19科目）の構成と履修方法、それぞれの科目のねらいと内容、指導のポイントを検討し、実際の授業のあり方、評価の方法についても概説します。さらに、20年度に告知された新学習指導要領についても触れ、移行期および実施時期について解説します。

#### 教科書

『高等学校学習指導要領解説 家庭』

『新家庭基礎 ともにいきる くらしをつくる』（教育図書）

#### 参考書

必要に応じて指示する

#### 成績評価の方法・基準

授業・発表態度、レポート、出席状況、試験等により評価します。

#### 事前準備学習

必要に応じて指示する

## 50014 家庭科教育法Ⅳ (Teaching of Home Economics IV)

配置年次 3

単位数 2 期間 後期

担当者 川上 美智子

履修可能学科

F

関連資格

教職

到達目標

- ・教科の目標に沿って、年間の指導計画を立てることができる。
- ・教材、教具を活かした指導案が作成できる。
- ・授業の進め方を理解し、効果的なプレゼンテーションができる。

#### 授業計画

1. 高等学校家庭科教育の歴史
2. 年間の指導計画
3. 指導案の作成法
4. 授業の実践（模擬授業）（第4回～第14回）  
展開とまとめ（第4回～第14回）  
講評と相互評価（第4回～第14回）
5. 全体講評

#### 授業概略

平成15年度からの高等学校家庭科教育課程改訂では、「自ら学び、自ら考える力を育成する」を基本目標に据え、男女共同参画社会の推進、少子高齢化等への対応を考慮して、家族や生活の営みを人の一生との関わりの中で総合的に捉え、家庭生活を主体的に営む能力と態度を育てること

を重視する」としている。なお、現行の家庭科は、普通教科「家庭」（「家庭基礎」「家庭総合」「生活技術」の科目）と、専門課程「家庭」（「生活産業基礎」等19科目）に2分割されている。普通教科「家庭」で扱われる男女共同参画社会を前提に、男女が協力して人の一生と家族福祉、衣食住、消費等、生活を創造するための能力・態度の育成と知識・技術を身につけさせるため、年間指導計画、授業構成、実践法について演習形式で学習させる。

また、平成24年から改定される新指導要領に挙げられた「環境に配慮したライフスタイル」、「生活設計の主体的な立案」などにも触れる。授業では、指導案を作成し、実際の授業を体験して、相互評価、まとめ等を行って行く。

#### 教科書

『高等学校学習指導要領 家庭』及び『解説』（文部科学省）  
『家庭基礎』（教育図書）

#### 参考書

指導案、媒体作成に必要な参考書については適宜指示する。

#### 成績評価の方法・基準

出席状況・授業態度20%、指導案の作成40%、プレゼンテーション能力40%を総合的に評価する。

#### 事前準備学習

指導案作成にあたっては、担当授業の内容を十分に理解しておくこと。

## 50015 道徳教育の研究 a

(Studies in Moral Teaching a)

配置年次 2

単位数 2 期間 後期

担当者 結城 敏也

履修可能学科

E Pe C W F

関連資格

教職

到達目標

中等教育で「道徳」を教えるための基本知識を理解する。道徳教育の指導をするための基本を履修する。

授業計画

1. 道徳とは何か？概括
2. 社会的存在としての人間と道徳
3. 「道徳を知ること」と「道徳的であること」
4. 宗教教育と道徳教育の関連性
5. イデオロギーの支配性
6. 道徳的判断主体としての人間
7. 道徳を教えること- 幼児教育の重要性
8. 道徳教育の隘路- 身体性の忘却
9. 学校教育と道徳教育  
国民国家の発生と学校における道徳教育
10. 道徳教育と思想教育（教育と洗脳）
11. 何故「修身」ではなく「道徳」なのか
12. 大日本帝国憲法下における「修身」教育の問題点
13. 道徳を教える「教師」に必要な品位について
14. 道徳教育の課題
15. 総括

授業概略

道徳とは何だろうか？生きていく上で「道徳」は何故必要なのだろう。なぜ学校で道徳を教えるのだろうか？社会のありかたによっては、「道徳」を教えるのは学校の役割ではない。しかしながら近代社会にあっては、社会が正常に存続するためには、市民に「道徳」を教え、道徳的規範意識を持たせるかたが不可欠になっている。市民の大多数が度徳的失ったとき、その社会は劣化し、衰亡する。現在の日本の社会状況においては、道徳的規範を知識としては持つものの、規範に従わないことをよしとする風潮があることは否定できない。このような状況では、学校教育ないでの道徳教育の重要性が喧伝されるようになってきている。

このような状況で、道徳を教えることを求められる教師には多くの責務が負わされることになる。そこで、道徳を教えるとは何かについて考察してみたいと思う。また、「道徳」について考えることなく「道徳」を学生に教えてしまうことになると、それは洗脳教育と変わらない事態に陥ってしまう危険性もあわせて考察したい。

教科書

プリントを授業中配布あるいはIC-UNIPAに掲示

参考書

和辻哲郎 「人間の学としての倫理学」 岩波文庫  
 エーリッヒ・フロム 「自由からの逃走」 東京創元社  
 プラトン 「国家」 高木八尺他編 「人権宣言集」 岩波文庫  
 カント 「実践理性批判」 岩波文庫  
 ルソー 「社会契約論」「人間不平等起源論」 岩波文庫  
 デューイ 「民主主義と教育」 岩波文庫  
 村上重良 「国家神道」 岩波書店  
 中内敏夫 「軍国美談と教科書」 岩波新書  
 岩本努 「『御真影』に殉じた教師たち」 大月書店  
 山中恒 「ボクラ小国民」 辺境社  
 西尾幹二 「GHQ焚書図書開封」 徳間書店  
 山住正己 「日本教育小史 一近・現代一」 岩波新書  
 スティーブン・ハッサン 「マインドコントロールの恐怖」 恒友出版  
 苔米地英人 「洗脳原論」 春秋社  
 スタンリー・キューブリック 「フルメタル・ジャケット」

成績評価の方法・基準

授業中での課題レポート提出、期末試験

事前準備学習

授業中に指定されたテキストを読んでくる。

授業中に指定された項目を調べてくる。

## 50015 道徳教育の研究 b

(Studies in Moral Teaching b)

配置年次 2

単位数 2 期間 後期

担当者 小川 哲哉

履修可能学科

E Pe C W F

関連資格

教職

到達目標

「徳育」論争の起源となるギリシア哲学を理解したうえで、我が国における道徳教育論の歴史を理解できる。さらに学習指導要領における道徳教育の主眼を把握し、学校教育現場における道徳実践教育の課題が理解できる。

授業計画

- (1) 道徳教育概論
- (2) 道徳教育の歴史（戦前）
- (3) 道徳教育の歴史（戦後）
- (4) 道徳教育の歴史（全面・特設の道徳）
- (5) 道徳教育の動向と課題
- (6) 2008年版学習指導要領と道徳
- (7) 道徳教育の方法（感性資料とは）
- (8) 道徳教育の方法（感性資料の活用）
- (9) 道徳教育の方法（理性授業の理論）
- (10) 道徳教育の方法（認知心理学の子供理解）
- (11) 道徳教育の方法（コルバーク理論の応用）
- (12) 道徳教育の方法（行動の道徳教育）
- (13) 道徳教育の方法（r臨床心理学との連携）
- (14) 道徳教育の方法（モラルスキルトレーニング）
- (15) 道徳教育の課題（道徳の時間の実際）

授業概略

本授業では、古くからの問い「徳は教えられるのか」を論及しながら、我が国の戦前、戦後の道徳教育の変遷を見た

うえで、2008年度版学習指導要領における道徳の意義を理解していく。さらに道徳教育の実践的理解を深めるため、感性、理性、行動の授業を取り上げて、道徳教育の教授スキルを学んでいく。

#### 教科書

授業の中で適宜紹介していく。

#### 参考書

授業の中で適宜紹介していく。

#### 成績評価の方法・基準

成績は小テスト（20%）、定期試験（80%）で判断する。

#### 事前準備学習

子どもに対する道徳教育だけではなく、大人のモラル低下の問題が深刻であることを事前に学習しておくこと

## 50015 道徳教育の研究 c

(Studies in Moral Teaching c)

配置年次 2

単位数 2 期間 後期

担当者 小川 哲哉

#### 履修可能学科

E Pe C W F

#### 関連資格

教職

#### 到達目標

「徳育」論争の起源となるギリシア哲学を理解したうえで、我が国における道徳教育論の歴史を理解できる。さらに学習指導要領における道徳教育の主眼を把握し、学校教育現場における道徳実践教育の課題が理解できる。

#### 授業計画

- (1) 道徳教育概論
- (2) 道徳教育の歴史（戦前）
- (3) 道徳教育の歴史（戦後）
- (4) 道徳教育の歴史（全面・特設の道徳）
- (5) 道徳教育の動向と課題
- (6) 2008年版学習指導要領と道徳
- (7) 道徳教育の方法（感性資料とは）
- (8) 道徳教育の方法（感性資料の活用）
- (9) 道徳教育の方法（理性授業の理論）
- (10) 道徳教育の方法（認知心理学の子供理解）
- (11) 道徳教育の方法（コールバーグ理論の応用）
- (12) 道徳教育の方法（行動の道徳教育）
- (13) 道徳教育の方法（臨床心理学との連携）
- (14) 道徳教育の方法（モラルスキルトレーニング）
- (15) 道徳教育の課題（道徳の時間の実際）

#### 授業概略

本授業では、古くからの問い「徳は教えられるのか」を論及しながら、我が国の戦前、戦後の道徳教育の変遷を見たうえで、2008年度版学習指導要領における道徳の意義を理解していく。さらに道徳教育の実践的理解を深めるため、感性、理性、行動の授業を取り上げて、道徳教育の教授スキルを学んでいく。

#### 教科書

授業の中で適宜紹介していく。

#### 参考書

授業の中で適宜紹介していく。

#### 成績評価の方法・基準

成績は小テスト（20%）、定期試験（80%）で判断する。

#### 事前準備学習

子どもに対する道徳教育だけではなく、大人のモラル低下の問題が深刻であることを事前に学習しておくこと

## 50016 特別活動の研究 a

(Studies in Extracurricular Activities a)

配置年次 2

単位数 2 期間 前期

担当者 鈴木 盈

#### 履修可能学科

E Pe C W F

#### 関連資格

教職

#### 到達目標

子どもを育てるキーワードとして「人間関係」を取り上げ、特別活動が学校教育の中で重要な役割を担っていることを学習指導要領に基づき、教師の視点から目標や各内容を学び、実践例を通して現実的な課題や問題点に対して実践的な説明ができるようにする。

#### 授業計画

- 1、なぜ、いま特別活動なのか、教師の役割とは何か
- 2、特別活動の歴史、新学習指導要領にいたるまで
- 3、特別活動の目標と特別活動の改善点とは何か
- 4、学校が抱える課題（保護者の信頼が得られない、集団力が弱まる現状）
- 5、集団力のデメリットを乗り越えるためには
- 6、特別活動で人間関係をどう築くか（集団形成の仕方）
- 7、人間関係をつくる学級活動とその内容（生徒指導の機能を生かす）
- 8、学級活動の指導案作成
- 9、人間関係を形成する係活動・委員会活動のあり方
- 10、人間関係を形成する児童会・生徒会活動の内容と問題点
- 11、クラブ活動の内容、部活動との関連、今後のあり方
- 12、学校行事の目標と各内容について（体験活動の重視）
- 13、ボランティア活動の重要性について
- 14、学校行事と国旗及び国歌の取り扱いについて
- 15、特別活動の評価方法とまとめ

#### 授業概略

子どもたちの人間関係形成能力の低下が問題視される中、特別活動がなぜいま大切なのかを新学習指導要領における改善点と特別活動の目標等について説明をし、特別活動の目標は「人間づくりが目標」という理念を様々な実践事例を通して学べるようにしていきます。

#### 教科書

「小・中学校学習指導要領解説 特別活動編」

#### 参考書

なし

#### 成績評価の方法・基準

最終試験の素点は100点満点とします。学習指導案の作成や小レポートは、各評価・点数化し加算します。その上で、「履修要覧」に掲載されている成績評価の基準に当てはめて評価します。

#### 事前準備学習

なし

## 50016 特別活動の研究 b

(Studies in Extracurricular Activities b)

配置年次 2

単位数 2 期間 前期

担当者 鈴木 盈

#### 履修可能学科

E Pe C W F

#### 関連資格

教職

#### 到達目標

子どもを育てるキーワードとして「人間関係」を取り上げ、特別活動が学校教育の中で重要な役割を担っているこ

とを学習指導要領に基づき、教師の視点から目標や各内容を学び、実践例を通して現実的な課題や問題点に対して実践的な説明ができるようにする。

#### 授業計画

- 1、なぜ、いま特別活動なのか、教師の役割とは何か
- 2、特別活動の歴史、新学習指導要領にいたるまで
- 3、特別活動の目標と特別活動の改善点とは何か
- 4、学校が抱える課題（保護者の信頼が得られない、集団力が弱まる現状）
- 5、集団力のデメリットを乗り越えるためには
- 6、特別活動で人間関係をどう築くか（集団形成の仕方）
- 7、人間関係をつくる学級活動とその内容（生徒指導の機能を生かす）
- 8、学級活動の指導案作成
- 9、人間関係を形成する係活動・委員会活動のあり方
- 10、人間関係を形成する児童会・生徒会活動の内容と問題点
- 11、クラブ活動の内容、部活動との関連、今後のあり方
- 12、学校行事の目標と各内容について（体験活動の重視）
- 13、ボランティア活動の重要性について
- 14、学校行事と国旗及び国歌の取り扱いについて
- 15、特別活動の評価方法とまとめ

#### 授業概略

子どもたちの人間関係形成能力の低下が問題視される中、特別活動がなぜいま大切なのかを新学習指導要領における改善点と特別活動の目標等について説明をし、特別活動の目標は「人間づくりが目標」という理念を様々な実践事例を通して学べるようにしていきます。

#### 教科書

「小・中学校学習指導要領解説 特別活動編」

#### 参考書

なし

#### 成績評価の方法・基準

最終試験の素点は100点満点とします。学習指導案の作成や小レポートは、各評価・点数化し加算します。その上で、「履修要覧」に掲載されている成績評価の基準に当てはめて評価します。

#### 事前準備学習

なし

- 8、学級活動の指導案作成
- 9、人間関係を形成する係活動・委員会活動のあり方
- 10、人間関係を形成する児童会・生徒会活動の内容と問題点
- 11、クラブ活動の内容、部活動との関連、今後のあり方
- 12、学校行事の目標と各内容について（体験活動の重視）
- 13、ボランティア活動の重要性について
- 14、学校行事と国旗及び国歌の取り扱いについて
- 15、特別活動の評価方法とまとめ

#### 授業概略

子どもたちの人間関係形成能力の低下が問題視される中、特別活動がなぜいま大切なのかを新学習指導要領における改善点と特別活動の目標等について説明をし、特別活動の目標は「人間づくりが目標」という理念を様々な実践事例を通して学べるようにしていきます。

#### 教科書

「小・中学校学習指導要領解説 特別活動編」

#### 参考書

なし

#### 成績評価の方法・基準

最終試験の素点は100点満点とします。学習指導案の作成や小レポートは、各評価・点数化し加算します。その上で、「履修要覧」に掲載されている成績評価の基準に当てはめて評価します。

#### 事前準備学習

なし

## 50016 特別活動の研究 d

(Studies in Extracurricular Activities d)

配置年次 2

単位数 2 期間 後期

担当者 鈴木 盈

履修可能学科

E Pe C W F

関連資格

教職

到達目標

子どもを育てるキーワードとして「人間関係」を取り上げ、特別活動が学校教育の中で重要な役割を担っていることを学習指導要領に基づき、教師の視点から目標や各内容を学び、実践例を通して現実的な課題や問題点に対して実践的な説明ができるようにする。

#### 授業計画

- 1、なぜ、いま特別活動なのか、教師の役割とは何か
- 2、特別活動の歴史、新学習指導要領にいたるまで
- 3、特別活動の目標と特別活動の改善点とは何か
- 4、学校が抱える課題（保護者の信頼が得られない、集団力が弱まる現状）
- 5、集団力のデメリットを乗り越えるためには
- 6、特別活動で人間関係をどう築くか（集団形成の仕方）
- 7、人間関係をつくる学級活動とその内容（生徒指導の機能を生かす）
- 8、学級活動の指導案作成
- 9、人間関係を形成する係活動・委員会活動のあり方
- 10、人間関係を形成する児童会・生徒会活動の内容と問題点
- 11、クラブ活動の内容、部活動との関連、今後のあり方
- 12、学校行事の目標と各内容について（体験活動の重視）
- 13、ボランティア活動の重要性について
- 14、学校行事と国旗及び国歌の取り扱いについて
- 15、特別活動の評価方法とまとめ

#### 授業概略

子どもたちの人間関係形成能力の低下が問題視される中、特別活動がなぜいま大切なのかを新学習指導要領における改善点と特別活動の目標等について説明をし、特別活

## 50016 特別活動の研究 c

(Studies in Extracurricular Activities c)

配置年次 2

単位数 2 期間 後期

担当者 鈴木 盈

履修可能学科

E Pe C W F

関連資格

教職

到達目標

子どもを育てるキーワードとして「人間関係」を取り上げ、特別活動が学校教育の中で重要な役割を担っていることを学習指導要領に基づき、教師の視点から目標や各内容を学び、実践例を通して現実的な課題や問題点に対して実践的な説明ができるようにする。

#### 授業計画

- 1、なぜ、いま特別活動なのか、教師の役割とは何か
- 2、特別活動の歴史、新学習指導要領にいたるまで
- 3、特別活動の目標と特別活動の改善点とは何か
- 4、学校が抱える課題（保護者の信頼が得られない、集団力が弱まる現状）
- 5、集団力のデメリットを乗り越えるためには
- 6、特別活動で人間関係をどう築くか（集団形成の仕方）
- 7、人間関係をつくる学級活動とその内容（生徒指導の機能を生かす）

共

通

E

Pe

Pe

C

C

生活基礎

基礎

W

F

看護基礎

基礎

N

経営基礎

基礎

M

卒

外

動の目標は「人間づくりが目標」という理念を様々な実践事例を通して学べるようにしていきます。

#### 教科書

「小・中学校学習指導要領解説 特別活動編」

#### 参考書

なし

#### 成績評価の方法・基準

最終試験の素点は100点満点とします。学習指導案の作成や小レポートは、各評価・点数化し加算します。その上で、「履修要覧」に掲載されている成績評価の基準に当てはめて評価します。

#### 事前準備学習

なし

## 50017 教育方法の研究 a

(Introduction to Teaching Methods a)

配置年次 2

単位数 2 期間 前期

担当者 本田 敏明

#### 履修可能学科

E Pe C W F

#### 関連資格

教職 社教 学芸

#### 到達目標

学校教育における教育とは何かを教師の視点から考察することができる。また、授業指導を実際にどのようにすればよいのかについて、具体的実践例を参考にしながら理解することができる。また、今日の学校教育において情報化社会の進展とともにその重要性を増している視聴覚教育の考え方や行い方について、密接な関連がある情報教育も視野に入れながら検討することができる。

#### 授業計画

1. はじめに：教育方法とは何か
2. 学校教育の構造(1)学校教育の領域について
3. 学校教育の構造(2)学校教育の機能について
4. 授業過程の構造(1)教授－学習過程について
5. 授業過程の構造(2)陶冶－訓育過程について
6. 授業過程の構造(3)学級教授組織について
7. 授業指導の技術と思想(1)指導的評価活動と班づくり
8. 授業指導の技術と思想(2)教材研究と発問づくり
9. 授業指導の技術と思想(3)教材研究演習
10. 授業指導の技術と思想(4)集団思考について
11. 授業指導の技術と思想(5)集団思考演習
12. 視聴覚教育について(1)定義と歴史
13. 視聴覚教育について(2)視聴覚メディアと教育
14. 視聴覚教育について(3)情報教育との関連
15. 今日の教育方法について、および総まとめ

#### 授業概略

学校教育における教育とは何かを教師の視点から考察する。また、授業指導を実際にどのようにすればよいのかについて、具体的に実践例を参考にしながら理解していく。また、今日の学校教育において情報化社会の進展とともにその重要性を増している視聴覚教育の考え方や行い方について、密接な関連がある情報教育も視野に入れながら検討する。

#### 教科書

教科書は使用しない。

#### 参考書

参考書については随時講義中に紹介する。

#### 成績評価の方法・基準

出席、小レポート、期末試験を総合して評価する。

#### 事前準備学習

中学校レベルでよいので、世界史(特に欧米)、日本史(特に戦後現代史)についての復習をしておくこと。

#### 備考

教室の定員の事情で a、b、c、d それぞれで適正受講者数に振り分けることがある。振り分けを実施するのは最初の講義開始時であるので、必ず出席すること。

## 50017 教育方法の研究 b

(Introduction to Teaching Methods b)

配置年次 2

単位数 2 期間 前期

担当者 本田 敏明

#### 履修可能学科

E Pe C W F

#### 関連資格

教職 社教 学芸

#### 到達目標

学校教育における教育とは何かを教師の視点から考察することができる。また、授業指導を実際にどのようにすればよいのかについて、具体的実践例を参考にしながら理解することができる。また、今日の学校教育において情報化社会の進展とともにその重要性を増している視聴覚教育の考え方や行い方について、密接な関連がある情報教育も視野に入れながら検討することができる。

#### 授業計画

1. はじめに：教育方法とは何か
2. 学校教育の構造(1)学校教育の領域について
3. 学校教育の構造(2)学校教育の機能について
4. 授業過程の構造(1)教授－学習過程について
5. 授業過程の構造(2)陶冶－訓育過程について
6. 授業過程の構造(3)学級教授組織について
7. 授業指導の技術と思想(1)指導的評価活動と班づくり
8. 授業指導の技術と思想(2)教材研究と発問づくり
9. 授業指導の技術と思想(3)教材研究演習
10. 授業指導の技術と思想(4)集団思考について
11. 授業指導の技術と思想(5)集団思考演習
12. 視聴覚教育について(1)定義と歴史
13. 視聴覚教育について(2)視聴覚メディアと教育
14. 視聴覚教育について(3)情報教育との関連
15. 今日の教育方法について、および総まとめ

#### 授業概略

学校教育における教育とは何かを教師の視点から考察する。また、授業指導を実際にどのようにすればよいのかについて、具体的に実践例を参考にしながら理解していく。また、今日の学校教育において情報化社会の進展とともにその重要性を増している視聴覚教育の考え方や行い方について、密接な関連がある情報教育も視野に入れながら検討する。

#### 教科書

教科書は使用しない。

#### 参考書

参考書については随時講義中に紹介する。

#### 成績評価の方法・基準

出席、小レポート、期末試験を総合して評価する。

#### 事前準備学習

中学校レベルでよいので、世界史(特に欧米)、日本史(特に戦後現代史)についての復習をしておくこと。

#### 備考

教室の定員の事情で a、b、c、d それぞれで適正受講者数に振り分けることがある。振り分けを実施するのは最初の講義開始時であるので、必ず出席すること。

## 50017 教育方法の研究 c

(Introduction to Teaching Methods c)

配置年次 2

単位数 2 期間 後期

担当者 本田 敏明

履修可能学科

E Pe C W F

関連資格

教職 社教 学芸

到達目標

学校教育における教育とは何かを教師の視点から考察することができる。また、授業指導を実際にどのようにすればよいのかについて、具体的実践例を参考にしながら理解することができる。また、今日の学校教育において情報化社会の進展とともにその重要性を増している視聴覚教育の考え方や行い方について、密接な関連がある情報教育も視野に入れながら検討することができる。

授業計画

1. はじめに：教育方法とは何か
2. 学校教育の構造(1)学校教育の領域について
3. 学校教育の構造(2)学校教育の機能について
4. 授業過程の構造(1)教授－学習過程について
5. 授業過程の構造(2)陶冶－訓育過程について
6. 授業過程の構造(3)学級教授組織について
7. 授業指導の技術と思想(1)指導的評価活動と班づくり
8. 授業指導の技術と思想(2)教材研究と発問づくり
9. 授業指導の技術と思想(3)教材研究演習
10. 授業指導の技術と思想(4)集団思考について
11. 授業指導の技術と思想(5)集団思考演習
12. 視聴覚教育について(1)定義と歴史
13. 視聴覚教育について(2)視聴覚メディアと教育
14. 視聴覚教育について(3)情報教育との関連
15. 今日の教育方法について、および総まとめ

授業概略

学校教育における教育とは何かを教師の視点から考察する。また、授業指導を実際にどのようにすればよいのかについて、具体的に実践例を参考にしながら理解していく。また、今日の学校教育において情報化社会の進展とともにその重要性を増している視聴覚教育の考え方や行い方について、密接な関連がある情報教育も視野に入れながら検討する。

教科書

教科書は使用しない。

参考書

参考書については随時講義中に紹介する。

成績評価の方法・基準

出席、小レポート、期末試験を総合して評価する。

事前準備学習

中学校レベルでよいので、世界史(特に欧米)、日本史(特に戦後現代史)についての復習をしておくこと。

備考

教室の定員の事情で a、b、c、d それぞれで適正受講者数に振り分けることがある。振り分けを実施するのは最初の講義開始時であるので、必ず出席すること。

## 50017 教育方法の研究 d

(Introduction to Teaching Methods d)

配置年次 2

単位数 2 期間 後期

担当者 本田 敏明

履修可能学科

E Pe C W F

関連資格

教職 社教 学芸

到達目標

学校教育における教育とは何かを教師の視点から考察することができる。また、授業指導を実際にどのようにすればよいのかについて、具体的実践例を参考にしながら理解することができる。また、今日の学校教育において情報化社会の進展とともにその重要性を増している視聴覚教育の考え方や行い方について、密接な関連がある情報教育も視野に入れながら検討することができる。

授業計画

1. はじめに：教育方法とは何か
2. 学校教育の構造(1)学校教育の領域について
3. 学校教育の構造(2)学校教育の機能について
4. 授業過程の構造(1)教授－学習過程について
5. 授業過程の構造(2)陶冶－訓育過程について
6. 授業過程の構造(3)学級教授組織について
7. 授業指導の技術と思想(1)指導的評価活動と班づくり
8. 授業指導の技術と思想(2)教材研究と発問づくり
9. 授業指導の技術と思想(3)教材研究演習
10. 授業指導の技術と思想(4)集団思考について
11. 授業指導の技術と思想(5)集団思考演習
12. 視聴覚教育について(1)定義と歴史
13. 視聴覚教育について(2)視聴覚メディアと教育
14. 視聴覚教育について(3)情報教育との関連
15. 今日の教育方法について、および総まとめ

授業概略

学校教育における教育とは何かを教師の視点から考察する。また、授業指導を実際にどのようにすればよいのかについて、具体的に実践例を参考にしながら理解していく。また、今日の学校教育において情報化社会の進展とともにその重要性を増している視聴覚教育の考え方や行い方について、密接な関連がある情報教育も視野に入れながら検討する。

教科書

教科書は使用しない。

参考書

参考書については随時講義中に紹介する。

成績評価の方法・基準

出席、小レポート、期末試験を総合して評価する。

事前準備学習

中学校レベルでよいので、世界史(特に欧米)、日本史(特に戦後現代史)についての復習をしておくこと。

備考

教室の定員の事情で a、b、c、d それぞれで適正受講者数に振り分けることがある。振り分けを実施するのは最初の講義開始時であるので、必ず出席すること。

## 50018 教育相談の基礎

(Basics of Educational Counseling)

配置年次 3

単位数 2 期間 前期

担当者 生越 達

履修可能学科

E C F

関連資格

教職

到達目標

子どもに関わるさいに教師に求められる基本的な態度や方法について理解する。またとくに教育相談に際しての基本的な技法を使えるようになる。さらにはとくに最近教師にとって重要になってきている家庭とのかかわり方や発達障害の理解について理解する。

授業計画

1. オリエンテーション：この授業の概略と求められること
2. 教育的状況における子ども理解の特徴

共通

E

Pe

Pc

C

生活基礎

W

F

看護基礎

N

経営基礎

M

卒業

3. 子どもを理解する眼差しを育てることの大切さ（第一回）
4. 子どもを理解する眼差しを育てることの大切さ（第二回）
5. 教師による教育相談とは
6. 教育相談に求められる多様な眼差し
7. 親子関係の重要性とその援助
8. 教育相談における家庭支援の在り方
9. 発達障害とは
10. 発達障害への対応について
11. 教育相談の際の基本的態度
12. カウンセリングの基本的技法
13. 教育相談に求められる人間理解の深さ
14. 教育相談における自己理解の重要性
15. まとめ

**授業概略**

子どもたちが日常的に子どもたちとどのようにかかわったらいのかについて理解したうえで、とくに教育相談における基本的態度や技法について学ぶ。とくに現代の子どもたちにかかわる難しさを理解したうえで、とくに家庭との関係の取り方や発達障害について理解を深める。

**教科書**

適宜プリントを用いる。教科書は用いない。

**参考書**

授業中に指示をする。

**成績評価の方法・基準**

試験により行う

**事前準備学習**

とくになし

**備考**

自ら考えることを重視したいので、積極的な参加を望む。講義のなかで指名して答えてもらったりすることもある。

**50019 生徒・進路指導論**

(Student Guidance and Guidance for Higher Education)

配置年次 3

単位数 2 期間 後期

担当者 生越 達

履修可能学科

E C F

関連資格

教職

到達目標

現代社会を生きる子どもたちの特徴を理解し、またいじめや不登校、反社会的行動といった子どもたちの問題行動に具体的に対応できるようになる。進路指導の理念を理解し、具体的に対応できるようになる。

授業計画

1. オリエンテーション：この授業の概略と求められること
2. 生徒指導とは何か
3. 現代社会における生徒指導
4. 生徒指導に求められる教師の資質
5. 現代の子どもたちの特徴（第一回）
6. 現代の子どもたちの特徴（第二回）
7. いじめの構造と現代型いじめ
8. 不登校の構造と分類
9. 反社会的行動と子どもへの攻撃性
10. 保護者への対応について
11. 家庭をどのように理解し、かかわっていくか
12. 現代社会における他者との共生
13. キャリア教育の理念と課題
14. キャリア教育の実践について
15. まとめ

**授業概略**

生徒指導を行うさいに求められる子ども理解について学び、具体的に不登校、いじめ、反社会的行動などを理解できるようにする。進路指導の理念と方法について学ぶ。

**教科書**

適宜プリントを用いる。教科書は用いない。

**参考書**

授業中に指示をする。

**成績評価の方法・基準**

試験により行う

**事前準備学習**

とくになし

**備考**

自ら考えることを重視したいので、積極的な参加を望む。講義のなかで指名して答えてもらったりすることもある。

**50020 教育相談**

(Educational Counseling)

配置年次 4

単位数 2 期間 後期

担当者 三澤 文紀

履修可能学科

E C W F

関連資格

教職

到達目標

この授業に積極的に参加することで、教育現場で役立つ基本的な心理学的知識や相談方法を説明することができる。

授業計画

- 第1回 教育相談の基礎：カウンセリングの基礎と教育相談の基礎の概観
  - 第2～5回 開発的カウンセリング：開発的カウンセリングの基礎、構成的グループエンカウンター、ソーシャル・スキル教育など
  - 第6～8回 子どもとの相談：子どもとの相談の基本、肯定的側面に注目したアプローチなど
  - 第9～11回 保護者との相談：保護者との相談の基本、家族発達など
  - 第12～13回 校内での協力体制と専門機関との連携：校内での役割の違い、各専門機関の特徴など
  - 第14回 教員のメンタルヘルス：教育現場の変化、教員に求められるメンタルヘルスの基本など
  - 第15回 総まとめ
- ※ 受講者の理解度に応じ、実施順や回数の変更、またはテーマの追加等を行うことがあります。

授業概略

教育相談（学校カウンセリング）はかなり難しく奥の深いものですが、それによって児童・生徒は救われ、大きく成長することがあります。この授業では、小・中学校における教育相談（学校カウンセリング）に関して、具体的な実践方法や事例を取り上げます。

教科書

必要な資料は、授業中に配布します。

参考書

一丸藤太郎・菅野信夫（編著）「学校教育相談」 ミネルヴァ書房

成績評価の方法・基準

レポート、要約発表等の課題（5種類を予定）によって評価します。ただし、遅刻、欠席、授業態度不良（特に私語）が目立つ場合、減点の対象とします。

事前準備学習

配布された資料の予習を推奨します。また、前回授業の復習や単元ごとの復習も推奨します。

備考

Pe以外の学生は、必ず初回の授業に出席し、履修上の注意

をよく聞いてください。また、5種類程度のレポート・要約発表等の課題があり、なおかつ受講者同士によるグループ活動が多いので、充分考慮して受講してください。

## 50021 教職総合演習 a

(General Seminar in Teaching Profession a)

配置年次 カリキュラムにより異なります。

単位数 2 期間 後期

担当者 滝田 薫

履修可能学科

E C W F

関連資格

教職

到達目標

この演習は、教職免許法施行規則に即して、企画、運営されます。すなわち、施行規則に「人類に共通する課題又は国社会全体にかかわる課題のうち一つ以上のものに関する分析及び検討並びにその課題について幼児、児童または生徒を指導するための方法及び技術を含むものとする」とあります。したがって、この演習では、以下の基本を押さえています。

- ・学生は、将来、教員として要求される生徒指導の技術、方法を体得するため、主体的、積極的に演習に参加する。
- ・学生は、演習(担当教員の指導を受けながら、人類に共通する又は国社会全体に関わる課題について 考察し、その中から、自己の関心に従って、個別の課題をそれぞれ選択する。
- ・学生は、教員の指導を受けながら、選択した課題について調査、分析し、その結果を演習を通じて、報告、発表する。
- ・学生は、将来、教員として児童、生徒を指導することを意識しながら、調査、分析の方法を実地に体験し、その技法の向上につとめる。
- ・報告者、発表者は、自らを教師に、他の学生を生徒に、それぞれ擬して、プレゼンテーションを実し、それぞれ教える立場と教えられる立場を経験する。
- ・報告、発表の終了後、教員の指導を受けながら、学生同士で相互批判を行う。

授業計画

以下プログラムはあくまで、ひとつのモデルであり、実際の演習がこのとおり進行するとは限りません。

- 第1回 オリエンテーション 教職総合演習とは・課題の説明⇒ホームワーク・課題の選択
- 第2回 選択した課題の発表(課題が本演習の対象としてふさわしいか? 課題選択の理由)  
参加者の課題別グループ分け⇒ホームワーク・グループによるミーティング
- 第3回 学習計画の発表・グループ別とその評価⇒ホームワーク・グループによるミーティング
- 第4回 学習計画の決定⇒ホームワーク・資料検索等開始
- 第5回 演習 教職とは何か  
教員経験者の講話と質疑応答
- 第6回 演習 観察と調査・手法を学ぶ・技術論
- 第7回 演習 観察と調査・手法を学ぶ・フィールドワーク経験
- 第8回 報告・発表 相互評価⇒ホームワーク・グループによるミーティング
- 第9回 報告・発表 相互評価⇒ホームワーク・グループによるミーティング
- 第10回 報告・発表 相互評価⇒ホームワーク・グループによるミーティング
- 第11回 報告・発表 相互評価⇒ホームワーク・グループによるミーティング
- 第12回 報告・発表 相互評価⇒ホームワーク・グループによるミーティング

プによるミーティング

第13回 報告・発表 相互評価⇒ホームワーク・グループによるミーティング

第14回 まとめ

第15回 予備日

授業概略

東海道53次を歩いた昔の旅人を想起してください。「旅は道連れ」という言葉がありますね。この演習の参加者は、同じ旅(教職をめざす)を行く道連れでしょう。教師は旅の先達(せんだつ)つまり、ガイドでしょう。演習の時間は、いわば旅の途中の宿屋といったものです。半年、15回、つまり、東海道53次のうち、旅人は15の宿場に泊まることとなります。この15の宿に泊まって、旅人は何をしようか。多分、それまで歩いてきた道のりを振り返り、同時に、地図や資料を見たりしながら、明日からの道程を考え、計画を練り直したりするでしょうね。

この演習で一番大事なのは、演習の時間(宿屋)ではなく、宿場と宿場の間の道程を実際に君自身の脚で歩くことです。プログラムを見てください。ホームワークと書いてある部分がありますね。この部分も、君自身が歩いている実際の道程の一部です。ホームワークは、君が必要とするなら、随時、仲間と相談して、実行してください。君が道連れになった仲間と一緒に調査し、分析し、一人の教師になった気持ちで、その成果を演習で発表しなければなりません。ここで手抜きをすれば、厳しい評価がされることになるでしょう。努力すれば、君の経験は、君が将来教壇に立った時、君の自信となって、君を支えてくれるでしょう。君が教員の道歩もうと思うなら、この演習を、いわば一里塚として、君の旅の道標として利用することです。

教科書

教科書は使用しません。手作りのプリント、資料を配布します。

参考書

課題が決まってから、参考文献については、演習の際に指示します。教職総合演習、それ自体についての参考書があります。

「教職 総合演習テキスト」 監修 篠田信司 他 三省堂

この本は、ワークブックが付いています。

「総合演習の理論と実践」 森山賢一 編著 学文社

成績評価の方法・基準

この演習では、「成績の評価」もひとつの訓練の対象となります。演習の参加者は、他の参加者の報告、発表について評価する、つまり、相互評価をします。相互評価の方法は、ワークシートを使用し統一された評価方法を用いることとなります。ただし、演習参加学生個々の成績をつけるのは、あくまで演習担当教員の仕事ですから、その点は誤解しないでください。演習の成績は、報告、発表以外に、提出されたレポートや演習参加の姿勢によって評価します。その際、バッドマーク方式、つまり、欠点や失敗をカウントする方式は採りません。優れた点、長所の発見を大事にし、それを評価します。

事前準備学習

シラバスをよく読んで、君自身が自分の学習を企画し、実行すること。

備考

このシラバスは、あくまで目安、モデルというものです。実際の演習は、このシラバスどおりにはならないでしょう。演習参加者と実際に演習を運営しながら調整していきますので、そのつもりでいてください。

共通

E

Pe

Pc

C

生活基礎

W

F

看護基礎

N

経営基礎

M

卒業

## 50021 教職総合演習 b (General Seminar in Teaching Profession b)

配置年次 カリキュラムにより異なります。

単位数 2 期間 後期

担当者 結城 敏也

履修可能学科

E C W F

関連資格

教職

到達目標

総合学習における指導の基礎をかためる。

授業計画

1. グループ分け、グループ・テーマ選択、テーマごとの演習予定の決定、調査分担の割り当

【第1テーマ (グループ)】

2. 概括、基礎資料提示、資料探索、資料読解

3. ディスカッション1

4. 中間報告1

さらなる資料探索の方向性の示唆、グループ打ち合わせ

この時間までに個人テーマを決定し書面で報告する

5. ディスカッション2

6. 中間報告2

7. プレゼンテーション準備

8. プレゼンテーション、総評、レポート提出

【第2テーマ (個人)】

9. テーマに基づいた基礎資料提示、資料探索、資料読解

10. 中間報告1

11. 中間報告2

12. 中間報告3

13. プレゼンテーション1

14. プレゼンテーション2

15. プレゼンテーション3

授業概略

現代におけるさまざまな問題について、指導の仕方を身に着けることを目的とする。第1テーマはグループ作業、第2テーマは個人作業とする。グループを作り、テーマを選択。そのテーマに沿って資料探索、読解を行いディスカッションを繰り返し考察を深め、レポートを作成し、プレゼンテーションを行う。個人テーマについては、4回目の演習までに個人テーマを決め、書面で報告する。グループ作業のテーマと、個人作業のテーマは重複しないこと。(より細分化した問題の掘り下げであれば問題はない。)

「教育とは何か」、「幼児教育の意義」、「早期教育の問題点」、「教育における自発性とは」、「教育における管理の問題」、「異文化理解と共生」、「高齢化と福祉」といったような、教育にかかわる、あるいは現代生活にかかわる重要な問題をテーマとする。与えられたテーマについての予習が必須である。

教科書

なし

参考書

藤川 大祐 (監修) 「総合学習のテーマ別ホームページ完全活用ガイド」 あかね書房

齋藤 浩 「これからの『総合的な学習』—情報の活用力を育む」 学文社

国立教育政策研究所教育課程研究センター (著) 「総合的な学習の時間実践事例集 (小学校編)」 東洋館出版社

成績評価の方法・基準

ディスカッションへの寄与、プレゼンテーションの実施、各テーマごとのレポート提出

事前準備学習

各テーマごとの資料探索、ディスカッション準備を指定された授業時間までに行う。

備考

指定された事前学習 (調べ物)・課題の期限内の提出は必須であることに注意されたい。

## 50021 教職総合演習 c (General Seminar in Teaching Profession c)

配置年次 カリキュラムにより異なります。

単位数 2 期間 後期

担当者 長澤 邦紘

履修可能学科

E C W F

関連資格

教職

到達目標

(1) 異文化理解を主テーマに、さらに特化したテーマを設定し、その問題を解決するためのプロジェクト研究の計画を立てることができる。

(2) 問題解決のための方法を考え出すことができる。

(3) その方法に従って研究を遂行することができる。

(4) 研究の成果を口頭で発表することができる。

(5) 研究の成果をペーパーで発表することができる。

授業計画

1. 授業計画説明

2. テーマの選定

3. プロポーザル・英語レポートのまとめ方

4. 研究事例の講読 (1)

5. 研究事例の講読 (2)

6. プロポーザル

7. 文献紹介

8. 研究相談

9. 個別作業

10. 中間発表

11. 文献紹介

12. 研究相談

13. 最終発表原稿作成

14. 最終発表原稿へのフィードバック

15. 最終発表・ディフェンス・全体講評

授業概略

この授業では、人類に共通する諸課題のうち「異文化理解」に焦点を当て、この課題に関するより具体的な問題を探究するためのプロジェクト研究をおこないます。「異文化理解」の個別的テーマとしては、日英文化の違いや外国語教育のあり方などが考えられますが、受講生はさらにテーマを絞って自分のテーマを決定します。(例:日米の漫画の違い、日本と中国における英語学習法の違いなど) そして、その問題を考察するためのデータを文献やフィールド・ワークなどから収集し、収集したデータを分析・検討して、そこから問題解決のための一定の展望・打開策を提示します。その成果は口頭発表され、ペーパーにまとめられます。これらの経験は、後年、小学校、中学校、高等学校で「総合的な学習の時間」を指導する場合に生かされます。

教科書

なし

参考書

奥山晃弘・半田 博。2000.『総合演習ワーク・ノート』(田研出版)。

成績評価の方法・基準

(1) プロポーザル 15%

(2) 研究事例講読 15%

(3) 中間発表 15%

(4) 最終口頭発表・ディフェンス 15%

(5) ペーパー 30%

(6) 振り返り 10%

事前準備学習

次の事項について授業で発表するために準備をする。

- (1) テーマの選定
- (2) 研究事例 (英語論文)
- (3) プロポーザル
- (4) 中間発表
- (5) 文献紹介
- (6) 最終発表
- (7) ペーパー作成 (英語で3000語)

- (5) ペーパー 30%
- (6) 振り返り 10%

**事前準備学習**

次の事項について授業で発表するために準備をする。

- (1) テーマの選定
- (2) 研究事例 (英語論文)
- (3) プロポーザル
- (4) 中間発表
- (5) 文献紹介
- (6) 最終発表
- (7) ペーパー作成 (英語で3000語)

共通

E

P

e

P

c

C

生活基礎

W

F

看護基礎

N

経営基礎

M

卒業

**50021 教職総合演習 d**

(General Seminar in Teaching Profession d)

配置年次 カリキュラムにより異なります。

単位数 2 期間 後期

担当者 長澤 邦紘

履修可能学科

E C W F

関連資格

教職

到達目標

- (1) 異文化理解を主テーマに、さらに特化したテーマを設定し、その問題を解決するためのプロジェクト研究の計画を立てることができる。
- (2) 問題解決のための方法を考え出すことができる。
- (3) その方法に従って研究を遂行することができる。
- (4) 研究の成果を口頭で発表することができる。
- (5) 研究の成果をペーパーで発表することができる。

授業計画

1. 授業計画説明
2. テーマの選定
3. プロポーザル・英語レポートのまとめ方
4. 研究事例の講読 (1)
5. 研究事例の講読 (2)
6. プロポーザル
7. 文献紹介
8. 研究相談
9. 個別作業
10. 中間発表
11. 文献紹介
12. 研究相談
13. 最終発表原稿作成
14. 最終発表原稿へのフィードバック
15. 最終発表・ディフェンス・全体講評

授業概略

この授業では、人類に共通する諸課題のうち「異文化理解」に焦点を当て、この課題に関するより具体的な問題を探究するためのプロジェクト研究をおこないます。「異文化理解」の個別的テーマとしては、日英文化の違いや外国語教育のあり方などが考えられますが、受講生はさらにテーマを絞って自分のテーマを決定します。(例:日米の漫画の違い、日本と中国における英語学習法の違いなど)そして、その問題を考察するためのデータを文献やフィールド・ワークなどから収集し、収集したデータを分析・検討して、そこから問題解決のための一定の展望・打開策を提示します。その成果は口頭発表され、ペーパーにまとめられます。これらの経験は、後年、小学校、中学校、高等学校で「総合的な学習の時間」を指導する場合に生かされます。

教科書

なし

参考書

奥山晃弘・半田 博。2000.『総合演習ワーク・ノート』(田研出版)。

成績評価の方法・基準

- (1) プロポーザル 15%
- (2) 研究事例講読 15%
- (3) 中間発表 15%
- (4) 最終口頭発表・ディフェンス 15%

**50025 中等教育実習 I (事前事後指導1単位を含む)**

(Teaching Practicum in High School I (Including 1 Credit of Guidance and Followup))

配置年次 4

単位数 3 期間 通年

担当者 石川 潤

履修可能学科

E C W F

関連資格

教職

到達目標

【事前指導】

- ・教育実習の概要を理解し、自らの目標を定め、積極的に取り組もうとする。
- ・学校の教育活動への理解を深め、実践に学ぼうとする。

【教育実習】

- ・勤務の体験をとおり、教育作用の全般的な認識を深めようとする。
- ・教師として必要な知識、技能を習得しようとする。
- ・教師として自覚し、その使命を体得しようとする。
- ・自己の特徴と不備を知り、たえず自己の課題の発見とその解決に努力しようとする。
- ・大学において習得した教育の理論や原理を教育現場に適用し、主体的に経験を再構成しようとする。
- ・将来の教育の方向や課題に関心をもち、先見的に教育実践にあたらうとする。

【事後指導】

- ・教育実習を振り返り、教師としての課題を見つけ、その解決にあたらうとする。

授業計画

【事前指導第1回】

- ・教職の意義、教員に求められる資質能力、教員養成制度における教育実習、教育実習を受け入れる学校の立場等

【事前指導第2・3回】

- ・教育実習にあたって、勤務と留意事項、教育実習生の一日の生活の流れ等
- ・自己目標の設定、教育実習履修簿の記載と活用、教育実習研究報告書等

【事前指導第4・5回】

- ・各教科(社会科、英語科、家庭科)の学習指導

【事前指導第6・7回】

- ・学校経営、教育課程、主な教育活動等

【教育実習】

- ・教育実習校における教育実践に関する指導、教育活動への「観察」「参加」「実習」

【事後指導第1回】

- ・授業実践を振り返って(各教科)

【事後指導第2回】

- ・教育実習を振り返って(自己評価、今後の課題の確認等)

【事後指導第3回】

- ・教育実習報告会(次年度教育実習生を含む)

授業概略

教育実習に係る心構えについて理解するとともに、教職における基礎的・基本的事項を確認し、意欲的に実習に望む

ようにします。また、実習後は、実習の成果、自らの課題を確認し、主体的に課題解決にあたるようにします。

#### 教科書

茨城キリスト教大学『教育実習履修簿（中等用）』2011年授業で使用する資料については全て配布します。

#### 参考書

教育実習校種の学習指導要領解説総則編、及び担当する校種教科に係る学習指導要領解説。参考図書は授業の中で紹介します。

#### 成績評価の方法・基準

事前指導・事後指導における試験、提出物、授業態度等、教育実習簿の記載・整理状況、教育実習研究報告書、教育実習校の成績評価等により総合的に評価します。

#### 事前準備学習

これまで履修した教職に関する授業の基礎的・基本的な内容について事前に復習しておいてください。特に、担当教科に対してはしっかり確認しておいてください。

#### 備考

この授業を履修するにあたっては、教職に就こうとする強い意志をもつとともに、授業、学級経営を中心に学校の教育活動を推進するための基本的な知識・技能を理解していることが望まれます。中学校教諭1種免許状、高等学校教諭1種免許状を取得しようとする者は、事前指導、教育実習、事後指導を必ず履修してください。なお、この授業は欠席は認められませんので、自分の計画を十分に調整しておいてください。中学校教諭1種免許状を取得しようとする者は、中等教育実習Ⅱの履修も必須となりますので注意してください。教育実習の履修については、さまざまな要件がありますので、履修する者は随時確認しておいてください。

## 50026 中等教育実習Ⅱ

(Teaching Practicum in High School II)

配置年次 4

単位数 2 期間 通年

担当者 石川 潤

履修可能学科

E C W F

関連資格

教職

到達目標

(本学においては、中等教育実習Ⅱは、中等教育実習Ⅰとともに履修することとしていますので、ここでは、事前指導、事後指導を含めて示します。)

#### 【事前指導】

- ・教育実習の概要を理解し、自らの目標を定め、積極的に取り組もうとする。
- ・学校の教育活動への理解を深め、実践に学ぼうとする。

#### 【教育実習】

- ・勤務の体験をとおり、教育作用の全般的な認識を深めようとする。
- ・教師として必要な知識、技能を習得しようとする。
- ・教師として自覚し、その使命を体得しようとする。
- ・自己の特徴と不備を知り、たえず自己の課題の発見とその解決に努力しようとする。
- ・大学において習得した教育の理論や原理を教育現場に適用し、主体的に経験を再構成しようとする。
- ・将来の教育の方向や課題に関心をもち、先見的に教育実践にあたらうとする。

#### 【事後指導】

- ・教育実習を振り返り、教師としての課題を見つけ、その解決にあたらうとする。

#### 授業計画

(本学においては、中等教育実習Ⅱは、中等教育実習Ⅰとともに履修することとしていますので、ここでは、事前指

導、事後指導を含めて示します。)

#### 【事前指導第1回】

・教職の意義、教員に求められる資質能力、教員養成制度における教育実習、教育実習を受け入れる学校の立場等

#### 【事前指導第2・3回】

・教育実習にあたって、勤務と留意事項、教育実習生の一日の生活の流れ等  
・自己目標の設定、教育実習履修簿の記載と活用、教育実習研究報告書等

#### 【事前指導第4・5回】

・各教科(社会科、英語科、家庭科)の学習指導

#### 【事前指導第6・7回】

・学校経営、教育課程、主な教育活動等

#### 【教育実習】

・教育実習校における教育実践に関する指導、教育活動への「観察」「参加」「実習」

#### 【事後指導第1回】

・授業実践を振り返って(各教科)

#### 【事後指導第2回】

・教育実習を振り返って(自己評価、今後の課題の確認等)

#### 【事後指導第3回】

・教育実習報告会(次年度教育実習生を含む)

#### 授業概略

(本学においては、中等教育実習Ⅱは、中等教育実習Ⅰとともに履修することとしていますので、ここでは、事前指導、事後指導を含めて示します。)教育実習に係る心構えについて理解するとともに、教職における基礎的・基本的事項を確認し、意欲的に実習に望むようにします。また、実習後は、実習の成果、自らの課題を確認し、主体的に課題解決にあたるようにします。

#### 教科書

(本学においては、中等教育実習Ⅱは、中等教育実習Ⅰとともに履修することとしていますので、ここでは、事前指導、事後指導を含めて示します。)茨城キリスト教大学『教育実習履修簿(中等用)』2011年授業で使用する資料については全て配布します。

#### 参考書

(本学においては、中等教育実習Ⅱは、中等教育実習Ⅰとともに履修することとしていますので、ここでは、事前指導、事後指導を含めて示します。)教育実習校種の学習指導要領解説総則編、及び担当する校種教科に係る学習指導要領解説。参考図書は授業の中で紹介します。

#### 成績評価の方法・基準

(本学においては、中等教育実習Ⅱは、中等教育実習Ⅰとともに履修することとしていますので、ここでは、事前指導、事後指導を含めて示します。)事前指導・事後指導における試験、提出物、授業態度等、教育実習簿の記載・整理状況、教育実習研究報告書、教育実習校の成績評価等により総合的に評価します。

#### 事前準備学習

(本学においては、中等教育実習Ⅱは、中等教育実習Ⅰとともに履修することとしていますので、ここでは、事前指導と事後指導を含めて示します。)これまで履修した教職に関する授業の基礎的・基本的な内容について事前に復習しておいてください。特に、担当教科に対してはしっかり確認しておいてください。

#### 備考

(本学においては、中等教育実習Ⅱは、中等教育実習Ⅰとともに履修することとしていますので、ここでは、事前指導、事後指導を含めて示します。)この授業を受講するにあたっては、教職に就こうとする強い意志をもつとともに、授業、学級経営を中心に学校の教育活動を推進するための基本的な知識・技能を理解していることが望まれます。中学校教諭1種免許状、高等学校教諭1種免許状を取得しようとする者は、事前指導、教育実習、事後指導を必ず履修してください。なお、この授業は欠席は認められませんの

で、自分の計画を十分に調整しておいてください。中等教育実習Ⅱのみの履修は認められません。中等教育実習Ⅰとともに履修してください。教育実習の履修については、さまざまな要件がありますので、履修する者は随時確認しておいてください。

## 50027 人文地理学 (Human Geography)

配置年次 2  
単位数 4 期間 通年  
担当者 岩間 信之  
履修可能学科  
C W  
関連資格  
教職  
到達目標  
人文地理学の習得

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 自然環境と地域1
- 第3回 自然環境と地域2
- 第4回 地域と農業1：世界の農業地域
- 第5回 地域と農業2：アグリビジネスの地域的展開
- 第6回 地域と農業3：農山村の地域問題とエコツーリズム
- 第7回 地域と農業4：有機栽培地域の形成と環境負荷軽減問題
- 第8回 地域と工業1：工業立地論
- 第9回 地域と工業2：産業革命と世界遺産
- 第10回 地域と工業3：大手メーカーのネットワーク  
ー国内における産業集積と空洞化ー
- 第11回 地域と工業4：中小製造業の集積（1）  
ー産業集積論ー
- 第12回 地域と工業5：中小製造業の集積（2）  
ー日本の大都市と周辺「町工場」の立地ー
- 第13回 地域と工業6：工業化と環境破壊
- 第14回 地域と都市1：世界の大都市の歴史と構造
- 第15回 地域と都市2：先進国の都市群システム 第16回  
地域と都市3：先進国の都市群システム  
ー美しきヨーロッパの街並みー
- 第17回 地域と都市4：発展途上国における都市問題  
ーごみの山に住む人々ー
- 第18回 地域と商業1：都市と農村の商業  
ー農村にブランドショップは建ちえるか？ー
- 第19回 地域と商業2：小売業の政策（1）ー大店法から  
大店立地法へー
- 第20回 地域と商業3：小売業の政策（2）  
ー商店街の衰退と都市観光による「まちづくり」  
への挑戦
- 第21回 地域と商業4：Food desert問題の台頭  
ー都心に取り残された老人たちー
- 第22回 地域と商業5：近代小売業の礎としての百貨店と  
近年の百貨店倒産問題
- 第23回 地域と商業6：コンビニエンスストアの大躍進
- 第24回 地域と商業7：物流システムの構築  
ーコンビニの次は何が流行る？ー
- 第25回 地域と商業8：小売業の国際化1ーRetail TNCの  
海外進出ー
- 第26回 地域と商業9：小売業の国際化2  
ー海外ブランド企業の日本襲来ー
- 第27回 地域と情報化1：情報化社会の到来
- 第28回 地域と情報化2：情報化による地域の変化ーサイ  
バースペース論ー
- 第29回 地域と環境1：いま私たちの周りで何が起こっ  
ているのか？

## 第30回 地域と環境2：環境保護に向けた新たな取り組み 授業概略

人文地理学の講義では、「地域」を読み解く視点を学びます。「地域」とは、自然環境（気候、地形など）と人文環境（人間の活動：各産業、歴史、文化など）が相互に織り成す、地表上の空間を意味します。

地理学とは奥の深い学問です。例えば、みなさんは観光地という言葉から何を連想するでしょうか？ 観光地は、スキー場や避暑地、温泉のようなリゾート地ばかりではありません。古代の遺跡や城壁などの歴史遺産、ニューラナークや日立鉱山のような工業の礎：産業遺産、はたまたディズニールランドからお台場のショッピングモールまで、実に多種多様です。最近では、途上国のスラム街でさえ観光地化しています。観光地とは何なのか？ どうしてこのような地域が形成されたのか？ 観光地の背後には、どのような問題が潜んでいるのか？ 観光地を理解するには、表象部分だけでなく、その特徴や形成要因、つまり観光地の背後にある「地域」を深く理解しなければいけません。

この講義では、「地域」を読み解く視点を幅広く学んでいきます。人文地理学Ⅰでは、自然環境と第一次産業（農林水産業）、第二次産業（製造業）との関係から、地域を解説します。つづく人文地理学Ⅱでは、第三次産業（サービス業、商業、情報産業）と近年の環境問題の視点から、地域を見ていきます。

### 教科書

なし

### 参考書

- ・荒井良雄・箸本健二編『日本の流通と都市空間』（古今書院、2004年発行）
- ・Neil Wrigley・Michelle Lowe著『Reading retail』（Arnold: London ; Oxford Univ）

### 成績評価の方法・基準

試験結果 50% 平常点 50%（授業毎の小問題）

### 事前準備学習

この講義は「人文地理学ⅠⅡ」と同時開講である。

## 50028 自然地理学 (Natural Geography)

配置年次 2  
単位数 4 期間 通年  
担当者 岩間 信之  
履修可能学科  
C W  
関連資格  
教職  
到達目標  
自然地理学の習得

### 授業計画

1. 自然地理学とは？
2. 地形図の読解
3. 地形を形成する作用
4. 大洋と大山脈
5. 海・海流
6. 火山活動
7. 氷河地形
8. 浸食地形
9. 河川の浸食地形
10. 堆積平野
11. 海岸地形
12. サンゴ礁・カルスト地形
- 13-15 野外調査
16. 自然地理と地域文化の関係
17. 東南アジアの自然と文化1：概略
18. 東南アジアの自然と文化2：大陸山地
19. 東南アジアの自然と文化3：デルタ地帯

20. 東南アジアの自然と文化4：海浜地帯1
21. 東南アジアの自然と文化5：海浜地帯2
22. 東南アジアの自然と文化6：火山島
23. 東南アジアの自然と文化7：ウォーレンシア
24. 東南アジアの自然と文化8：イリアンジャヤ
25. ヨーロッパの自然と文化1
26. ヨーロッパの自然と文化2
27. アメリカの自然と文化1
28. アメリカの自然と文化2
29. 野外調査
30. まとめ

**授業概略**

「地域」とは、自然環境（気候、地形など）と人文環境（人間の活動：各産業、歴史、文化など）が相互に織り成す、地表上の空間を意味します。私達の生活の場である「地域」は、自然と深いかかわりのなかで形成されています。この講義では、大気や地形といった自然地理の基礎を学習するとともに、「地域」と自然環境との関わりを学んでいきます。

**教科書**

なし

**参考書**

- ・松岡憲知ほか『地球環境学-地球環境を調査・分析・診断するための30章』（古今書院）
- ・山本正三ほか『自然環境と文化』（大明堂）

**成績評価の方法・基準**

試験結果 30% 平常点 70%（授業毎の小試験および各種作業）

**事前準備学習**

講義毎に課題も出す予定です。

**50029 地誌**

(Geology)

配置年次 2

単位数 2 期間 前期

担当者 岩間 信之

履修可能学科

C W

関連資格

教職

到達目標

地誌学の基礎を学ぶ

授業計画

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：日本の位置と自然環境
- 第3回：北海道地方(その1)北海道地方の歴史と風土
- 第4回：北海道地方(その2)開拓の歴史と観光リゾート
- 第5回：東北地方(その1)東北地方の歴史と風土
- 第6回：東北地方(その2)米作りと地域開発の歴史
- 第7回：関東地方(その1)関東地方の歴史と風土
- 第8回：関東地方(その2)世界都市・東京の機能
- 第9回：中部地方(その1)中部地方の歴史と風土
- 第10回：中部地方(その2)自動車の街、ファッション産業の街
- 第11回：中国・四国(その1)中国・四国地方の歴史と風土
- 第12回：中国・四国(その2)海軍の都市から大重化学工業地帯へ
- 第13回：九州・沖縄(その1)九州・沖縄地方の歴史と風土
- 第14回：九州・沖縄(その2)九州・沖縄固有の文化と世界的観光リゾート地化
- 第15回：まとめ

**授業概略**

地誌とは地理学の一領域であり、諸地域を自然条件や歴史、経済、行政、風土などの視点から系統立てて分析していく学問である。本講義では、日本および世界の諸地域の

歴史や文化、風土を分かりやすく解説していく。あわせて、諸地域における時事問題も取り上げていく。

**教科書**

講義のなかで、その都度指示する。

**参考書**

なし

**成績評価の方法・基準**

授業毎の小テスト（50%）、および学期末テスト（50%）により評価する。

**事前準備学習**

社会科の教員免許取得希望者、および観光学関連の資格取得希望者は受講を勧める。

**50030 介護技術 a**

(Care Work a)

配置年次 2

単位数 2 期間 前期

担当者 沼田 恵子

履修可能学科

W

関連資格

教職

到達目標

この科目は、高等学校教諭一種（福祉）の必修となっています。

人間福祉実習を控えている学生、介護に興味・関心のある学生を対象に行います。

介護技術というと、「食事」「排泄」「入浴」の三大介護に目が向きがちですが、それぞれの技術は独立しているものではなく、利用者の生活を支えるという視点をもって技術を組み立てていかなければなりません。

この授業では、単に正しい介護技術を学ぶことを目的にするのではなく、介護を受ける側の体験を何よりも大切にします。

**授業計画**

1. ガイダンス（授業の進め方、評価、介護技術の学び方、介護者の健康管理）
2. コミュニケーション技術
3. 健康観察（言葉による観察、体調確認、検温、脈拍、血圧、呼吸）
4. 住環境の整備（室内環境を整える、ベッドメイキング）
5. 移動の介助1（ベッド上の移動と体位変換）
6. 移動の介助2（立ち上がりと移乗の介助）
7. 移動の介助3（車いすでの移動）
8. 歩行介助
9. 食事の介助
10. 衣類の着脱の介助（衣類着脱の基本、着替えの介助）
11. 排泄介助1（排泄介助の基本、トイレでの介助）
12. 排泄介助2（オムツ介助）
13. 身体の清潔（身体を清潔にする方法、入浴、清拭、口腔ケア等）
14. 形態別、障害別の介護
15. まとめ（介護技術試験を含む）

**授業概略**

生活支援技術としての介護技術理論と実技演習

**教科書**

岩橋成子著『知っておきたい介護技術の基本』誠信書房

**参考書**

※必要に応じてプリントを配布します。

**成績評価の方法・基準**

出席、提出物、実技試験、授業時の参加態度を総合的に評価します。

**事前準備学習**

人間福祉実習および人間福祉実習指導を履修中の学生は、介護概論との同時履修を原則とする。社会福祉士を希望す

る学生は2年次必修。実際に介護を体験するため、一クラスの人数を30名程度とする。クラスによって人数の偏りがないように、クラス分けは原則として教員が行う。授業の際には動きやすい服装で参加すること。自前のエプロンを用意すること。(エプロンには、大学名と氏名を書いたハガキ大の白い布を縫い付けておくこと)

## 50030 介護技術 b (Care Work b)

配置年次 2  
単位数 2 期間 前期  
担当者 沼田 恵子  
履修可能学科  
W

関連資格  
教職

### 到達目標

この科目は、高等学校教諭一種(福祉)の必修となっています。

人間福祉実習を控えている学生、介護に興味・関心のある学生を対象に行います。

介護技術というと、「食事」「排泄」「入浴」の三大介護に目が向きがちですが、それぞれの技術は独立しているのではなく、利用者の生活を支えるという視点をもって技術を組み立てていかなければなりません。

この授業では、単に正しい介護技術を学ぶことを目的にするのではなく、介護を受ける側の体験を何よりも大切にします。

### 授業計画

1. ガイダンス(授業の進め方、評価、介護技術の学び方、介護者の健康管理)
2. コミュニケーション技術
3. 健康観察(言葉による観察、体調確認、検温、脈拍、血圧、呼吸)
4. 住環境の整備(室内環境を整える、ベッドメイキング)
5. 移動の介助1(ベッド上の移動と体位変換)
6. 移動の介助2(立ち上がりと移乗の介助)
7. 移動の介助3(車いすでの移動)
8. 歩行介助
9. 食事の介助
10. 衣類の着脱の介助(衣類着脱の基本、着替えの介助)
11. 排泄介助1(排泄介助の基本、トイレでの介助)
12. 排泄介助2(オムツ介助)
13. 身体の清潔(身体を清潔にする方法、入浴、清拭、口腔ケア等)
14. 形態別、障害別の介護
15. まとめ(介護技術試験を含む)

### 授業概略

生活支援技術としての介護技術理論と実技演習

### 教科書

岩橋成子著『知っておきたい介護技術の基本』誠信書房

### 参考書

※必要に応じてプリントを配布します。

### 成績評価の方法・基準

出席、提出物、実技試験、授業時の参加態度を総合的に評価します。

### 事前準備学習

人間福祉実習および人間福祉実習指導を履修中の学生は、介護概論との同時履修を原則とする。社会福祉士を希望する学生は2年次必修。実際に介護を体験するため、一クラスの人数を30名程度とする。クラスによって人数の偏りがないように、クラス分けは原則として教員が行う。授業の際には動きやすい服装で参加すること。自前のエプロンを用意すること。(エプロンには、大学名と氏名を書いたハガキ大の白い布を縫い付けておくこと)

## 50031 介護等体験(事前事後指導含む) a (Experience in Nursing (Including Guidance) a)

配置年次 カリキュラムにより異なります。

単位数 2 期間 前期

担当者 石田 隆雄、富樫 ひとみ

履修可能学科

E C W F

関連資格

教職

到達目標

介護等体験の必要性の主旨にそって社会福祉施設と特別支援学校の実態、さらにそこで生活する施設利用者や障害のある児童生徒について理解を深め、彼らと人権を尊重しながら豊かに関わることができるようにする。

授業計画

- 【第01回】(担当:石田) オリエンテーション、介護等体験学習の意義と目的
- 【第02回】(担当:富樫) 社会福祉の理念
- 【第03回】(担当:富樫) 社会福祉のしくみ
- 【第04回】(担当:石田) 社会福祉のサービスと施設(1) 高齢者福祉施設と児童福祉施設
- 【第05回】(担当:石田) 社会福祉のサービスと施設(2) 障害者福祉と障害者支援施設
- 【第06回】(担当:石田) 介護等体験の心構えと事前準備
- 【第07回】(担当:石田) 特別支援学校について

授業概略

介護等体験特例法により、小中学校の教員免許状を取得する者は、社会福祉施設5日間、特別支援学校2日間の介護等体験が義務づけられました。その特例法の主旨を達成するために、現在の福祉対策の動向と課題を学び、体験実習により課題意識をもって積極的に取り組めるようにします。

この講義は介護等体験の実施と一体化していますので、学生ではなく社会人としての厳しさも学びますので時間に少しでも遅れると講座が受けられないなど厳しい姿勢で授業をすすめます。

教科書

初回授業前に販売します

- (1)「介護等体験マニュアルノート」(茨城県社会福祉協議会)
- (2)「介護等体験のためのケアリング論」(チャイルドセンター)

その他自作プリントを配布

参考書

参考図書、資料等は、授業の中で紹介します

成績評価の方法・基準

出席状況、提出物、体験後レポートから総合的に判定します。

事前準備学習

なし

備考

講義は全出席のこと、遅刻は厳禁

## 50031 介護等体験(事前事後指導含む) b (Experience in Nursing (Including Guidance) b)

配置年次 カリキュラムにより異なります。

単位数 2 期間 後期

担当者 石田 隆雄、富樫 ひとみ

履修可能学科

E C W F

関連資格

教職

到達目標

介護等体験の必要性の主旨にそって社会福祉施設と特別

共通

E

Pe

Pc

C

生活基礎

W

F

看護基礎

N

経営基礎

M

卒業

支援学校の実態、さらにそこで生活する施設利用者や障害のある児童生徒について理解を深め、彼らと人権を尊重しながら豊かに関わることができるようにする

#### 授業計画

- 【第01回】(担当:石田) オリエンテーション、介護等体験学習の意義と目的
- 【第02回】(担当:富樫) 社会福祉の理念
- 【第03回】(担当:富樫) 社会福祉のしくみ
- 【第04回】(担当:石田) 社会福祉のサービスと施設 (1) 高齢者福祉施設と児童福祉施設
- 【第05回】(担当:石田) 社会福祉のサービスと施設 (2) 障害者福祉と障害者支援施設
- 【第06回】(担当:石田) 介護等体験の心構えと事前準備
- 【第07回】(担当:石田) 特別支援学校について

#### 授業概略

介護等体験特例法により、小中学校の教員免許状を取得する者は、社会福祉施設5日間、特別支援学校2日間の介護等体験が義務づけられました。その特例法の主旨を達成するために、現在の福祉対策の動向と課題を学び、体験実習により課題意識をもって積極的に取り組めるようにします。

この講義は介護等体験の実施と一体化していますので、学生ではなく社会人としての厳しさも学びますので時間に少しでも遅れると講座が受けられないなど厳しい姿勢で授業をすすめます。

#### 教科書

初回授業前に販売します

- (1)「介護等体験マニュアルノート」(茨城県社会福祉協議会)
- (2)「介護等体験のためのケアリング論」(チャイルドセンター)

その他自作プリントを配布

#### 参考書

参考図書、資料等は、授業の中で紹介します

#### 成績評価の方法・基準

出席状況、提出物、体験後レポートから総合的に判定します。

#### 事前準備学習

なし

#### 備考

講義は全出席のこと、遅刻は厳禁

## 50032 生涯学習概論 (Survey of Lifelong Education)

配置年次 2

単位数 4 期間 通年

担当者 藤原 昌樹

履修可能学科

E Pe Pc C

#### 関連資格

社教 学芸

#### 到達目標

生涯学習にかかわるさまざまな法令の内容、施設の機能、専門的支援職員の役割、今日的な課題などについて説明することができる。

#### 授業計画

1. 生涯学習とは何か (1) —前期講義のガイダンスと計画 (シラバス使用)
2. 生涯学習とは何か (2) —その定義と現状の概略
3. 生涯学習の理念 (1) —生涯学習論の登場
4. 生涯学習の理念 (2) —生涯学習論の源流
5. 生涯学習の理念 (3) —行政の基本的理解
6. 生涯学習の理念 (4) —生涯学習理念の基本的理解
7. 生涯学習論の展開
8. 日本の生涯学習政策 (1) —1970年代の展開

9. 日本の生涯学習政策 (2) —1980年代の展開

10. 日本の生涯学習政策 (3) —1990年代から現代までの展開

11. 生涯学習の現代的な課題 (1) —生涯学習とボランティア

12. 生涯学習の現代的な課題 (2) —生涯学習と高等教育

13. 生涯学習の現代的な課題 (3) —生涯学習と高齢者

14. 生涯学習の現代的な課題 (4) —生涯学習とキャリア形成

15. 今後の「生涯学習」を考える—前期講義のまとめ

16. 生涯学習と社会教育—後期講義のガイダンスと計画 (シラバス使用)

17. 生涯学習の設計—学習全体計画

18. 生涯学習の内容と方法—生涯各期の学習課題

19. 生涯学習と成人教育論

20. 生涯学習施設 (1) —公民館

21. 生涯学習施設 (2) —博物館、図書館

22. 生涯学習施設 (3) —青少年教育施設

23. 生涯学習としての家庭教育の課題

24. 生涯学習としての学校教育の課題

25. 生涯学習としての社会教育の課題

26. 生涯学習の支援者 (1) —専門的な職員論

27. 生涯学習の支援者 (2) —行政委嘱指導者論

28. 施設別の学習情報提供

29. 学習相談の意義

30. 今後の「生涯学習」と「社会教育」を考える—講義全体のまとめと今後の学習課題

#### 授業概略

本講義は、生涯学習全般について理解を深めるとともに、生涯学習・社会教育の専門的な支援職員である学校教員・社会教育主事・学芸員・図書館司書等として活躍するために必要な考え方や知識、能力の基礎を培うことを目的としている。そのため、前期は、生涯学習に関する総論的な内容で構成され、生涯学習の理念、生涯学習論、生涯学習政策 (史) を中心にして講義を行う。後期は、生涯学習の中心領域である「社会教育」について理解を深めるため、社会教育に関する総論的な内容で構成され、社会教育の概念、社会教育と生涯学習論との関係、生涯学習計画、生涯学習 (社会教育) 施設論等を中心にして講義を行う。また、この授業を通して、これまでの自らの被教育体験を振り返り、今後の自分自身の「生き方」を探ることもこの授業の目的である。

#### 教科書

佐藤春雄編、望月厚志・芝田彩千子著『現代学校教育高度化講座 第6巻 生涯学習と学習社会の創造』(学文社、2011年9月刊行予定)

毎時間レジュメを配付し、必要に応じて、印刷資料、映像資料を使用する。

#### 参考書

鈴木真理・清國祐二編著『社会教育計画の基礎』(学文社、2004年)、岡本包治編『現代生涯学習全集』(ぎょうせい)

#### 成績評価の方法・基準

事前の課題学習、授業への取り組み、授業時の課題レポート (60%) および学期末最終課題レポート (40%) を総合的に評価する。

#### 事前準備学習

講義の終わりに、次回学習する内容のキーワードを提示するので、その概要を調べておくことより深く理解することができる。

#### 備考

講義時間ごとに学習課題が課せられるので、継続的な出席が求められる。

## 50033 社会教育計画

(Social Education Project)

配置年次 2

単位数 4 期間 通年

担当者 藤原 昌樹、望月 厚志

履修可能学科

E Pe Pc C

関連資格

社教

到達目標

社会教育計画立案に必要な基礎的理論を理解したうえで、学習プログラム（個別事業計画）を立案することができる。

授業計画

1. 社会教育と計画（1章）
2. 地域を基盤とした社会教育（2章）
3. 社会教育と施設（3章）
4. 社会教育と集団・ボランティア（4章）
5. 社会教育における連携（5章）
6. 計画立案と調査（6章）
7. 学習プログラム策定の原理と論理（7章）
8. 学習者の理解と学習者のニーズ（8章）
9. 学習支援の方法（9章）
10. 学習機会の設定と学習者の参加（10章）
11. 社会教育における評価（11章）
12. 社会教育計画を考える視座1（12章）
13. 社会教育計画を考える視座2（12章）
14. 社会教育施設経営の諸類型（特論2）
15. 前期講義のまとめ
16. 後期の計画とグルーピング（シラバス使用）
17. 学習事業企画の理解
18. 学習事業企画の運営
19. 学習事業企画の立案（1）－モデル市町村の現状の把握
20. 学習事業企画の立案（2）－モデル市町村の課題の分析
21. 学習事業企画の立案（3）－モデル市町村の中・長期事業計画の分析
22. 学習事業企画の立案（4）－モデル市町村の年間事業計画の分析
23. 学習事業企画の立案（5）－学習プログラムの作成
24. 学習事業企画の立案（6）－学習展開計画の作成
25. プレゼンテーション（1）
26. プレゼンテーション（2）
27. 学習事業企画の評価
28. 報告書作成（1）
29. 報告書作成（2）
30. 講義全体のまとめと今後の学習課題

授業概略

本講義は、社会教育主事に必要な「社会教育計画」立案の基礎的資質を培うことを目的としている。そのため、前期は、社会教育についての基礎的な理解を深めるとともに、社会教育計画立案の考え方について学習する「理論編」である。また後期は、学習事業の計画・実施・評価までの全プロセスを実習することにより、地域における学習を支援する学習支援者としての力量を養成する「実践編」である。特に前期は、下記のテキストを毎時間使用して講義を行う。

教科書

鈴木真理・清國祐二編著『社会教育計画の基礎』（学文社、2004年）

その他、必要に応じて、印刷資料、映像資料を使用する。

参考書

授業時に提示する。

成績評価の方法・基準

事前の課題学習、授業への取り組み、授業時の課題報告

（60%）および学期末最終課題レポート（40%）を総合的に評価する。

事前準備学習

講義の終わりに、次回学習する内容のキーワードを提示するので、その概要を調べておくとより深く理解することができる。

備考

各時間ごとの課題やグループワーク等が課せられるので、継続的な出席が求められる。

## 50034 社会教育演習

(Social Education Seminar)

配置年次 3

単位数 4 期間 通年

担当者 藤原 昌樹

履修可能学科

E Pe Pc C

関連資格

社教

到達目標

余暇（自由時間）の重要性を理解するとともに、学習事業としてのイベントを企画・立案することができる。

授業計画

1. 本演習のガイダンスと前期の計画（シラバス使用）
2. 余暇の概念
3. 労働と余暇
4. 日本人の余暇の歴史（1）－近代以前の余暇
5. 日本人の余暇の歴史（2）－明治・大正期の余暇
6. 日本人の余暇の歴史（3）－昭和以降の余暇
7. 「活動」と「空間」からみた余暇
8. 余暇にかかわる「意識」
9. 余暇とレクリエーション（1）－レクリエーションの定義
10. 余暇とレクリエーション（2）－レクリエーションの歴史
11. 余暇とレクリエーション（3）－レクリエーションの生活化と生活のレクリエーション化
12. 高齢者と余暇・レクリエーション
13. 障がい者と余暇・レクリエーション
14. レジャー・カウンセリング
15. 前期演習のまとめ
16. 後期の計画とグルーピング（シラバス使用）
17. イベントの形と内容
18. イベントの特性と機能
19. イベントづくりの仕組みとつくり方
20. PERT法
21. 企画づくりの手順
22. イベントの計画づくり（1）－基本構想、基本計画を考える
23. イベントの計画づくり（2）－6W2Hを考える
24. イベントの計画づくり（3）－企画書の構成要素を考える
25. 企画書の意義とつくり方
26. プレゼンテーションの意義とその方法
27. プレゼンテーション（1）
28. プレゼンテーション（2）
29. 企画の評価
30. 講義全体のまとめと今後の学習課題

授業概略

本演習は、生涯学習・社会教育の専門的な支援職員である学校教員・社会教育主事・学芸員・図書館司書等として活躍するために必要な考え方や知識、能力を、実践的に培うことを目的としている。前期は、生涯学習・社会教育に参加するために必要な「余暇（自由時間）」について学習する。また後期は、学習事業としてのイベントの計画・実施・

共通

E

Pe

Pc

C

生活基礎

W

F

看護基礎

N

経営基礎

M

卒業

評価までの全プロセスを実習することにより、地域における学習を支援する学習支援者としての力量を養成する。

#### 教科書

毎時間レジュメを配付し、必要に応じて、印刷資料、映像資料を使用する。

#### 参考書

ヨゼフ・ピーパー著、稲垣良典訳『余暇と祝祭』（講談社学術文庫、1988年）

#### 成績評価の方法・基準

事前の課題学習、授業への取り組み、授業時の課題報告（60%）および学期末最終課題レポート（40%）を総合的に評価する。

#### 事前準備学習

講義の終わりに、次回学習する内容のキーワードを提示するので、その概要を調べておくとより深く理解することができる。

#### 備考

各時間ごとの課題やグループワーク等が課せられるので、継続的な出席が求められる。

## 50037 博物館概論

(General Survey of Museum Science)

配置年次 2

単位数 2 期間 前期

担当者 瓦吹 堅

履修可能学科

E Pe Pc C

関連資格

社教 学芸

到達目標

博物館概論を通して博物館に関する基本的な知識を基礎に、博物館の歴史や活動、さらに学芸員の専門性について説明できる。

授業計画

- 1 博物館学とは
- 2 博物館とは
- 3・4 博物館の歴史
- 5 博物館の定義
- 6・7 博物館の種類と活動
- 8 博物館の組織
- 9 博物館の職員
- 10・11 学芸員の専門性
- 12 博物館の利用
- 13 博物館の倫理
- 14 国際博物館会議
- 15 概論についての総まとめ

授業概略

博物館学を通して博物館に関する基本的な知識の習得を図り、学芸員の業務の専門性を理解させ、あるべき姿を理解させる。

教科書

倉田公裕・矢島國雄『新編博物館学』東京堂出版

参考書

なし

成績評価の方法・基準

レポートや最終試験と、出席を総合的に判断し、「履修要覧」掲載の成績評価の基準に当てはめて評価します。

事前準備学習

博物館の展示などを見学することによって、より講義内容を深く理解することが可能です。

## 50038 博物館学各論

(Studies in Museum Science)

配置年次 3

単位数 4 期間 通年

担当者 瓦吹 堅

履修可能学科

E Pe Pc C

関連資格

社教 学芸

到達目標

博物館概論を通して学んだ博物館に関する基本的な知識を基礎に、博物館の実務である収集・保存・調査・研究・展示・教育などの活動や運営についても説明できる。

授業計画

- 1 博物館各論について
- 2～6 調査・研究について
- 7～10 収集・保存について
- 11～14 展示について
- 15 調査・研究、収集・保存、展示についてのまとめ
- 16～19 博物館教育について
- 20～23 博物館の経営について
- 24～26 博物館の情報について
- 27・28 展示案の作成
- 29 展示案の検討と評価
- 30 博物館各論の総まとめ

授業概略

博物館の収集・保存・調査・研究・展示・教育など学芸員の業務の専門性を理解させ、経営などの活動についても紹介する。また、構内の施設を利用した展示案の作成作業も実施する。

教科書

倉田公裕・矢島國雄『新編博物館学』東京堂出版

参考書

なし

成績評価の方法・基準

レポートや最終試験と、出席を総合的に判断し、「履修要覧」掲載の成績評価の基準に当てはめて評価します。

事前準備学習

博物館の展示などを見学することによって、より講義内容を深く理解することが可能です。

## 50039 視聴覚教育メディア論 a

(Studies in Audio-Visual Education Media a)

配置年次 2

単位数 2 期間 前期

担当者 本田 敏明

履修可能学科

E Pe Pc C

関連資格

社教 学芸

到達目標

学校教育における教育とは何かを教師の視点から考察することができる。また、授業指導を実際にどのようにすればよいのかについて、具体的実践例を参考にしながら理解することができる。また、今日の学校教育において情報化社会の進展とともにその重要性を増している視聴覚教育の考え方や行い方について、密接な関連がある情報教育も視野に入れながら検討することができる。

授業計画

1. はじめに：教育方法とは何か
2. 学校教育の構造(1)学校教育の領域について
3. 学校教育の構造(2)学校教育の機能について
4. 授業過程の構造(1)教授－学習過程について
5. 授業過程の構造(2)陶冶－訓育過程について

6. 授業過程の構造(3)学級教授組織について
7. 授業指導の技術と思想(1)指導の評価活動と班づくり
8. 授業指導の技術と思想(2)教材研究と発問づくり
9. 授業指導の技術と思想(3)教材研究演習
10. 授業指導の技術と思想(4)集団思考について
11. 授業指導の技術と思想(5)集団思考演習
12. 視聴覚教育について(1)定義と歴史
13. 視聴覚教育について(2)視聴覚メディアと教育
14. 視聴覚教育について(3)情報教育との関連
15. 今日の教育方法について、および総まとめ

#### 授業概略

学校教育における教育とは何かを教師の視点から考察する。また、授業指導を実際にどのようにすればよいのかについて、具体的に実践例を参考にしながら理解していく。また、今日の学校教育において情報化社会の進展とともにその重要性を増している視聴覚教育の考え方や行い方について、密接な関連がある情報教育も視野に入れながら検討する。

#### 教科書

教科書は使用しない。

#### 参考書

参考書については随時講義中に紹介する。

#### 成績評価の方法・基準

出席、小レポート、期末試験を総合して評価する。

#### 事前準備学習

中学校レベルでよいので、世界史(特に欧米)、日本史(特に戦後現代史)についての復習をしておくこと。

#### 備考

教室の定員の事情でa、b、c、dそれぞれで適正受講者数に振り分けることがある。振り分けを実施するのは最初の講義開始時であるので、必ず出席すること。

## 50039 視聴覚教育メディア論 b

(Studies in Audio-Visual Education Media b)

配置年次 2

単位数 2 期間 前期

担当者 本田 敏明

履修可能学科

E Pe Pc C

関連資格

社教 学芸

到達目標

学校教育における教育とは何かを教師の視点から考察することができる。また、授業指導を実際にどのようにすればよいのかについて、具体的実践例を参考にしながら理解することができる。また、今日の学校教育において情報化社会の進展とともにその重要性を増している視聴覚教育の考え方や行い方について、密接な関連がある情報教育も視野に入れながら検討することができる。

授業計画

1. はじめに：教育方法とは何か
2. 学校教育の構造(1)学校教育の領域について
3. 学校教育の構造(2)学校教育の機能について
4. 授業過程の構造(1)教授-学習過程について
5. 授業過程の構造(2)陶冶-訓育過程について
6. 授業過程の構造(3)学級教授組織について
7. 授業指導の技術と思想(1)指導的評価活動と班づくり
8. 授業指導の技術と思想(2)教材研究と発問づくり
9. 授業指導の技術と思想(3)教材研究演習
10. 授業指導の技術と思想(4)集団思考について
11. 授業指導の技術と思想(5)集団思考演習
12. 視聴覚教育について(1)定義と歴史
13. 視聴覚教育について(2)視聴覚メディアと教育
14. 視聴覚教育について(3)情報教育との関連
15. 今日の教育方法について、および総まとめ

#### 授業概略

学校教育における教育とは何かを教師の視点から考察する。また、授業指導を実際にどのようにすればよいのかについて、具体的に実践例を参考にしながら理解していく。また、今日の学校教育において情報化社会の進展とともにその重要性を増している視聴覚教育の考え方や行い方について、密接な関連がある情報教育も視野に入れながら検討する。

教科書

教科書は使用しない。

参考書

参考書については随時講義中に紹介する。

成績評価の方法・基準

出席、小レポート、期末試験を総合して評価する。

事前準備学習

中学校レベルでよいので、世界史(特に欧米)、日本史(特に戦後現代史)についての復習をしておくこと。

備考

教室の定員の事情でa、b、c、dそれぞれで適正受講者数に振り分けることがある。振り分けを実施するのは最初の講義開始時であるので、必ず出席すること。

## 50039 視聴覚教育メディア論 c

(Studies in Audio-Visual Education Media c)

配置年次 2

単位数 2 期間 後期

担当者 本田 敏明

履修可能学科

E Pe Pc C

関連資格

社教 学芸

到達目標

学校教育における教育とは何かを教師の視点から考察することができる。また、授業指導を実際にどのようにすればよいのかについて、具体的実践例を参考にしながら理解することができる。また、今日の学校教育において情報化社会の進展とともにその重要性を増している視聴覚教育の考え方や行い方について、密接な関連がある情報教育も視野に入れながら検討することができる。

授業計画

1. はじめに：教育方法とは何か
2. 学校教育の構造(1)学校教育の領域について
3. 学校教育の構造(2)学校教育の機能について
4. 授業過程の構造(1)教授-学習過程について
5. 授業過程の構造(2)陶冶-訓育過程について
6. 授業過程の構造(3)学級教授組織について
7. 授業指導の技術と思想(1)指導的評価活動と班づくり
8. 授業指導の技術と思想(2)教材研究と発問づくり
9. 授業指導の技術と思想(3)教材研究演習
10. 授業指導の技術と思想(4)集団思考について
11. 授業指導の技術と思想(5)集団思考演習
12. 視聴覚教育について(1)定義と歴史
13. 視聴覚教育について(2)視聴覚メディアと教育
14. 視聴覚教育について(3)情報教育との関連
15. 今日の教育方法について、および総まとめ

授業概略

学校教育における教育とは何かを教師の視点から考察する。また、授業指導を実際にどのようにすればよいのかについて、具体的に実践例を参考にしながら理解していく。また、今日の学校教育において情報化社会の進展とともにその重要性を増している視聴覚教育の考え方や行い方について、密接な関連がある情報教育も視野に入れながら検討する。

教科書

教科書は使用しない。

## 参考書

参考書については随時講義中に紹介する。

## 成績評価の方法・基準

出席、小レポート、期末試験を総合して評価する。

## 事前準備学習

中学校レベルでよいので、世界史（特に欧米）、日本史（特に戦後現代史）についての復習をしておくこと。

## 備考

教室の定員の事情で a、b、c、d それぞれで適正受講者数に振り分けることがある。振り分けを実施するのは最初の講義開始時であるので、必ず出席すること。

## 50039 視聴覚教育メディア論 d (Studies in Audio-Visual Education Media d)

配置年次 2

単位数 2 期間 後期

担当者 本田 敏明

## 履修可能学科

E Pe Pc C

## 関連資格

社教 学芸

## 到達目標

学校教育における教育とは何かを教師の視点から考察することができる。また、授業指導を実際にどのようにすればよいのかについて、具体的実践例を参考にしながら理解することができる。また、今日の学校教育において情報化社会の進展とともにその重要性を増している視聴覚教育の考え方や行い方について、密接な関連がある情報教育も視野に入れながら検討することができる。

## 授業計画

1. はじめに：教育方法とは何か
2. 学校教育の構造(1)学校教育の領域について
3. 学校教育の構造(2)学校教育の機能について
4. 授業過程の構造(1)教授－学習過程について
5. 授業過程の構造(2)陶冶－訓育過程について
6. 授業過程の構造(3)学級教授組織について
7. 授業指導の技術と思想(1)指導の評価活動と班づくり
8. 授業指導の技術と思想(2)教材研究と発問づくり
9. 授業指導の技術と思想(3)教材研究演習
10. 授業指導の技術と思想(4)集団思考について
11. 授業指導の技術と思想(5)集団思考演習
12. 視聴覚教育について(1)定義と歴史
13. 視聴覚教育について(2)視聴覚メディアと教育
14. 視聴覚教育について(3)情報教育との関連
15. 今日の教育方法について、および総まとめ

## 授業概略

学校教育における教育とは何かを教師の視点から考察する。また、授業指導を実際にどのようにすればよいのかについて、具体的に実践例を参考にしながら理解していく。また、今日の学校教育において情報化社会の進展とともにその重要性を増している視聴覚教育の考え方や行い方について、密接な関連がある情報教育も視野に入れながら検討する。

## 教科書

教科書は使用しない。

## 参考書

参考書については随時講義中に紹介する。

## 成績評価の方法・基準

出席、小レポート、期末試験を総合して評価する。

## 事前準備学習

中学校レベルでよいので、世界史（特に欧米）、日本史（特に戦後現代史）についての復習をしておくこと。

## 備考

教室の定員の事情で a、b、c、d それぞれで適正受講者数に振り分けることがある。振り分けを実施するのは最初

の講義開始時であるので、必ず出席すること。

## 50041 博物館実習 (Museum Practicum)

配置年次 3

単位数 3 期間 通年

担当者 瓦吹 堅

## 履修可能学科

E Pe Pc C

## 関連資格

学芸

## 到達目標

博物館での実務、見学研修などを通して具体的に学芸員の専門性について説明できる。

## 授業計画

- 1 実務＝博物館実習 期間は約1週間－博物館施設の指定期間での実務体験  
実施施設－茨城県立歴史館、日立市郷土博物館等
- 2 見学実習＝県内外の施設を見学し、現場の学芸員に実務についての説明を受けて学習する。
  - 1) 前期(6月 1泊2日) 県内施設見学－茨城県立歴史館・茨城県自然博物館等
  - 2) 後期(11月 1泊2日) 県外施設見学－栃木県立博物館・福島県立博物館等
- 3 構内資料等の整理

## 授業概略

県内施設での実務実習を通して博物館活動の内容を具体的に理解し、また見学によって各施設の設立や活動を体験する。

## 教科書

『学芸員ハンドブック』

## 参考書

なし

## 成績評価の方法・基準

博物館施設での実習や県内外博物館施設の見学と実習レポートによって評価します。

## 事前準備学習

博物館の展示などを見学することによって、博物館の講演動内容をより深く理解することが可能です。

## 備考

本科目の履修に当たっては、様々な要件があるので「履修要覧」にて確認しておくこと。  
博物館実習費とは別に見学の際、交通費・宿泊費等が自己負担（例年3万円程度）になります。

## 50050 学校経営と学校図書館 a (School Management and School Library a)

配置年次 3

単位数 2 期間 前期

担当者 石川 賀一

## 履修可能学科

E C W F

## 関連資格

司書教

## 到達目標

- ・学校教育における学校図書館の教育的意義など、学校図書館の基本事項について理解する。
- ・司書教諭の任務について理解する。
- ・学校経営と直接関わる学校図書館運営について理解する。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 教育と学校図書館について
- 第3回 学校図書館の発達と役割について
- 第4回 制度としての学校図書館について

- 第5回 教育課程と学校図書館
- 第6回 学校経営と学校図書館
- 第7回 学校図書館メディアについて
- 第8回 学校図書館の施設・設備
- 第9回 学校図書館経営組織について
- 第10回 学校図書館経営について
- 第11回 学校図書館活動について
- 第12回 学校図書館活動の実際について
- 第13回 著作権について
- 第14回 学校図書館の評価と改善
- 第15回 まとめ・試験

**授業概略**

司書教諭の資格を取得するためには、5科目10単位（学校経営と学校図書館、学校図書館メディアの構成、学習指導と学校図書館、読書と豊かな人間性、情報メディアの活用、各2単位）にわたる講習が必要である。「学校経営と学校図書館」は、学校図書館全般に関する基礎的理解に要点を置き、実務的な内容について学ぶ4科目との関連にも留意した“学校図書館入門”ともいべき科目である。

本講義では、学校図書館の教育的意義、歴史、制度、司書教諭の任務、学校図書館経営者として学校図書館スタッフの組織化、学校図書館の経営方針・計画、学校図書館の評価などについて学ぶ。

**教科書**

古賀節子編『学校経営と学校図書館（司書教諭テキストシリーズ1）』（樹村房）。その他、必要に応じてプリント・関連資料を配付する。

**参考書**

講義内で適時紹介していく。

**成績評価の方法・基準**

評価の前提条件：出席状況（基本的に3分の2以上）、授業中の常識的態度。

評価方法：筆記試験の成績（90%）を基本とし、これに講義内に出題する課題（10%）を加えた総合評価。

**事前準備学習**

- ・情報活用能力を育成するためには幅広い教養と興味関心が不可欠です。受講者は日常から図書館を活用し、読書に親しみ、自己の課題解決に取り組む習慣を身に着けるよう心がけること。
- ・事前に学校図書館法に目を通しておくこと。
- ・事前に学習指導要領に目を通しておくこと。
- ・教育学や学校経営に対する関心も高めること。

**備考**

欠席は学習内容の理解に大きく影響を与えます。やむ得ず欠席する（した）場合は、報告すること。  
講義後、学習内容を整理し、文章にしてまとめる習慣を身につけること。

**50050 学校経営と学校図書館 b**  
(School Management and School Library b)

配置年次 3  
単位数 2 期間 前期  
担当者 石川 賀一  
履修可能学科  
E C W F

**関連資格**

司書教

**到達目標**

- ・学校教育における学校図書館の教育的意義など、学校図書館の基本事項について理解する。
- ・司書教諭の任務について理解する。
- ・学校経営と直接関わる学校図書館運営について理解する。

**授業計画**

- 第1回 ガイダンス

- 第2回 教育と学校図書館について
- 第3回 学校図書館の発達と役割について
- 第4回 制度としての学校図書館について
- 第5回 教育課程と学校図書館
- 第6回 学校経営と学校図書館
- 第7回 学校図書館メディアについて
- 第8回 学校図書館の施設・設備
- 第9回 学校図書館経営組織について
- 第10回 学校図書館経営について
- 第11回 学校図書館活動について
- 第12回 学校図書館活動の実際について
- 第13回 著作権について
- 第14回 学校図書館の評価と改善
- 第15回 まとめ・試験

**授業概略**

司書教諭の資格を取得するためには、5科目10単位（学校経営と学校図書館、学校図書館メディアの構成、学習指導と学校図書館、読書と豊かな人間性、情報メディアの活用、各2単位）にわたる講習が必要である。「学校経営と学校図書館」は、学校図書館全般に関する基礎的理解に要点を置き、実務的な内容について学ぶ4科目との関連にも留意した“学校図書館入門”ともいべき科目である。

本講義では、学校図書館の教育的意義、歴史、制度、司書教諭の任務、学校図書館経営者として学校図書館スタッフの組織化、学校図書館の経営方針・計画、学校図書館の評価などについて学ぶ。

**教科書**

古賀節子編『学校経営と学校図書館（司書教諭テキストシリーズ1）』（樹村房）。その他、必要に応じてプリント・関連資料を配付する。

**参考書**

講義内で適時紹介していく。

**成績評価の方法・基準**

評価の前提条件：出席状況（基本的に3分の2以上）、授業中の常識的態度。

評価方法：筆記試験の成績（90%）を基本とし、これに講義内に出題する課題（10%）を加えた総合評価。

**事前準備学習**

- ・情報活用能力を育成するためには幅広い教養と興味関心が不可欠です。受講者は日常から図書館を活用し、読書に親しみ、自己の課題解決に取り組む習慣を身に着けるよう心がけること。
- ・事前に学校図書館法に目を通しておくこと。
- ・事前に学習指導要領に目を通しておくこと。
- ・教育学や学校経営に対する関心も高めること。

**備考**

欠席は学習内容の理解に大きく影響を与えます。やむ得ず欠席する（した）場合は、報告すること。  
講義後、学習内容を整理し、文章にしてまとめる習慣を身につけること。

**50051 学校図書館メディアの構成**  
(Development of School Library Media)

配置年次 3  
単位数 2 期間 前期  
担当者 大畑 美智子  
履修可能学科  
E C W F

**関連資格**

司書教

**到達目標**

生き生きと機能・活動する学校図書館の運営にあたり、学校図書館メディアの基礎知識、組織化について理論、技術を獲得する。学校図書館法をはじめとする法令、規則、ツール等について児童生徒に説明することができる。

共通

E

Pe

Pc

C

生活基礎

W

F

看護基礎

N

経営基礎

M

卒業

**授業計画**

- 【第01回】学校教育と学校図書館
- 【第02回】メディアの特性と種類、学習、情報センター、読書センターとしての役割
- 【第03回】メディアの構成とその組織化
- 【第04回】出版流通、選定、
- 【第05回】ツール、法令、基準
- 【第06回】組織化と作業の流れ
- 【第07回】目録機能と役割、目録規則、記述と排列
- 【第08回】目録カードの作成
- 【第09回】分類-分類法、作業、図書記号
- 【第10回】件名、別置記号
- 【第11回】図書館の施設、利用案内、PR
- 【第12回】コンピューターの活用、検索、ネットワーク
- 【第13回】逐次刊行物、フェイリングシステム、
- 【第14回】著作権、情報活用技術について
- 【第15回】学校図書館と司書教諭 まとめ

**授業概略**

学習、情報センター、読書センターとしての学校図書館を運営するにあたって、必要とされる幅広いメディアの種類、特性を知る。資料組織化・活用にあたって、選定から資料提供にいたるまでの流れや目録・分類・検索等、資料、情報の活用技術を学習する。

**教科書**

志村尚夫編著『学校図書館メディアの構成とその組織化改訂版』青弓社 2009年

**参考書**

全国学校図書館協議会編『学校図書館・司書教諭講習資料』全国学校図書館協議会

**成績評価の方法・基準**

課題の提出、日常的な授業態度、試験の成績により、評価基準にあてはめて行なう。

**事前準備学習**

日常的に図書館、読書に対する興味、関心を持ち、学習への準備をしておく

## 50052 学習指導と学校図書館 a

(Learning Guidance and School Library a)

配置年次 3

単位数 2 期間 前期

担当者 坂本 俊

履修可能学科

E C W F

関連資格

司書教

到達目標

学校教育における学校図書館の機能や役割について理解を深め、児童生徒の生涯学習能力の育成に関して教科教育との効果的な連携方法を考え出せるようにする。

**授業計画**

1. 学習指導と学校図書館の関係
2. リテラシー能力と学校図書館
3. 生涯学習と学校図書館
4. 新学習指導要領と学校図書館における問題点
5. リテラシー育成のための指導計画
6. 情報メディアの活用のための図書館利用者教育
7. 教科学習への学校図書館支援
8. 問題解決学習について
9. 学習支援のための図書館利用
10. グループ活動発表
11. 学校図書館担当者の支援活動（教職員）
12. 学校図書館担当者の支援活動（児童生徒）
13. グループ活動発表2
14. 教科科目との効果的な連携
15. まとめ（学校図書館のあり方）

**授業概略**

学校教育において、「調べ学習」、「総合的な学習」などのさまざまな教科の教育目標を支援し、児童生徒の情報リテラシー能力、生涯学習能力を育成するために学校図書館の果たす役割は非常に大きいものがある。このため「学習指導と学校図書館」として学校図書館の具体的・実践的な支援方法について学習していく。また、学校図書館が「読書センター」、「学習センター」、「メディアセンター」として、効果的に機能するために司書教諭、学校司書の教員などの学校図書館担当者の担う役割や支援について考えていく。

**教科書**

志保田務ほか（編著）『学校教育と図書館－司書教諭科目のねらい・内容とその解説－』（第一法規、2007）  
授業で使用する資料については全て配付する。

**参考書**

なし

**成績評価の方法・基準**

授業内でのグループ活動発表、ワークシート・レポートの提出および定期試験の結果などを総合して評価する。評価の配分は定期試験を50%とし、グループ活動発表、ワークシート・レポートの提出、その他で50%とする。

**事前準備学習**

各回の授業内容を十分に理解し、グループ活動発表に積極的に取り組めるように準備することを求める。  
可能であれば事前に各学習指導要領に目を通しておくことが望ましい。

**備考**

グループ活動発表を円滑におこなうために、授業回数の3分の1を超える欠席がある場合には、評価の対象から外れるものとする。

## 50052 学習指導と学校図書館 b

(Learning Guidance and School Library b)

配置年次 3

単位数 2 期間 前期

担当者 坂本 俊

履修可能学科

E C W F

関連資格

司書教

到達目標

学校教育における学校図書館の機能や役割について理解を深め、児童生徒の生涯学習能力の育成に関して教科教育との効果的な連携方法を考え出せるようにする。

**授業計画**

1. 学習指導と学校図書館の関係
2. リテラシー能力と学校図書館
3. 生涯学習と学校図書館
4. 新学習指導要領と学校図書館における問題点
5. リテラシー育成のための指導計画
6. 情報メディアの活用のための図書館利用者教育
7. 教科学習への学校図書館支援
8. 問題解決学習について
9. 学習支援のための図書館利用
10. グループ活動発表
11. 学校図書館担当者の支援活動（教職員）
12. 学校図書館担当者の支援活動（児童生徒）
13. グループ活動発表2
14. 教科科目との効果的な連携
15. まとめ（学校図書館のあり方）

**授業概略**

学校教育において、「調べ学習」、「総合的な学習」などのさまざまな教科の教育目標を支援し、児童生徒の情報リテラシー能力、生涯学習能力を育成するために学校図書館の果たす役割は非常に大きいものがある。このため「学習指

導と学校図書館」として学校図書館の具体的・実践的な支援方法について学習していく。また、学校図書館が「読書センター」、「学習センター」、「メディアセンター」として、効果的に機能するために司書教諭、学校司書の教員などの学校図書館担当者の担う役割や支援について考えていく。

#### 教科書

志保田務ほか（編著）『学校教育と図書館—司書教諭科目のねらい・内容とその解説—』（第一法規，2007）

授業で使用する資料については全て配付する。

#### 参考書

なし

#### 成績評価の方法・基準

授業内でのグループ活動発表、ワークシート・レポートの提出および定期試験の結果などを総合して評価する。

評価の配分は定期試験を50%とし、グループ活動発表、ワークシート・レポートの提出、その他で50%とする。

#### 事前準備学習

各回の授業内容を十分に理解し、グループ活動発表に積極的に取り組めるように準備することを求める。

可能であれば事前に各学習指導要領に目を通しておくことが望ましい。

#### 備考

グループ活動発表を円滑におこなうために、授業回数の3分の1を超える欠席がある場合には、評価の対象から外れるものとする。

## 50053 読書と豊かな人間性

(Reading and Human Enrichment)

配置年次 3

単位数 2 期間 前期

担当者 大畑 美智子

履修可能学科

E C W F

関連資格

司書教

到達目標

読書活動、図書館活動を通じて、児童・生徒に多様な学びの方法論や実践の仕方、優れた図書や教材の用い方等を説明することができる。

授業計画

- 【第01回】授業のねらいと概要
- 【第02回】子どもと読書を取り巻く現状・国や自治体の施策・法令
- 【第03回】ことば、文字、書物と読書の意味
- 【第04回】子どもの成長、発達と本の世界
- 【第05回】読書資料の種類と特性
- 【第06回】児童書の歴史の変遷
- 【第07回】絵本の評価（昔ばなし絵本、科学絵本、定評のある児童書、教材等）
- 【第08回】読書活動と読書指導—方法、内容—
- 【第09回】読書指導と利用指導の計画、
- 【第10回】楽しい読書への誘い—行事計画、読書活動の手がかり、方法論
- 【第11回】ブックトーク、
- 【第12回】読み聞かせ、ストーリーテリング
- 【第13回】本の評価、書評、紹介文、ブックリスト、広報活動
- 【第14回】公共図書館、関連機関、地域、家庭との連携
- 【第15回】子どもと本のこれから、まとめ

授業概略

児童・生徒の発達段階に応じた読書活動・読書教育の理念と方法論を、子ども達を取り巻く環境（社会・家庭・国などの動き、関連の法律）などに、触れながら学習を進める。ことば・文字・本と子どもの成長や関わり、児童書の歴史的流れについてを学習し、具体的に子ども本を結びつける

手立てとしてをおはなし、読み聞かせ、ブックトークなどを用いた資料提供のありかた等を取り上げていく。

教科書

授業で使用する資料は随時配布する。

参考書

小中学校の教材となっている作品、児童生徒に勧めたい絵本・児童文学等を随時に提示紹介します。

成績評価の方法・基準

日常の授業や課題への取り組みの姿勢、試験等を総合的に評価します。

事前準備学習

身近な図書館や書店等でどのような児童書・教材があるか日常的に興味関心をもって見ておく

## 50054 情報メディアの活用 a

(Use of Information Media a)

配置年次 2

単位数 2 期間 前期

担当者 本田 敏明

履修可能学科

E C W F

関連資格

司書教

到達目標

学校教育における教育とは何かを教師の視点から考察することができる。また、授業指導を実際にどのようにすればよいのかについて、具体的実践例を参考にしながら理解することができる。また、今日の学校教育において情報化社会の進展とともにその重要性を増している視聴覚教育の考え方や行い方について、密接な関連がある情報教育も視野に入れながら検討することができる。

授業計画

1. はじめに：教育方法とは何か
2. 学校教育の構造(1)学校教育の領域について
3. 学校教育の構造(2)学校教育の機能について
4. 授業過程の構造(1)教授—学習過程について
5. 授業過程の構造(2)陶冶—訓育過程について
6. 授業過程の構造(3)学級教授組織について
7. 授業指導の技術と思想(1)指導の評価活動と班づくり
8. 授業指導の技術と思想(2)教材研究と発問づくり
9. 授業指導の技術と思想(3)教材研究演習
10. 授業指導の技術と思想(4)集団思考について
11. 授業指導の技術と思想(5)集団思考演習
12. 視聴覚教育について(1)定義と歴史
13. 視聴覚教育について(2)視聴覚メディアと教育
14. 視聴覚教育について(3)情報教育との関連
15. 今日の教育方法について、および総まとめ

授業概略

学校教育における教育とは何かを教師の視点から考察する。また、授業指導を実際にどのようにすればよいのかについて、具体的に実践例を参考にしながら理解していく。また、今日の学校教育において情報化社会の進展とともにその重要性を増している視聴覚教育の考え方や行い方について、密接な関連がある情報教育も視野に入れながら検討する。

教科書

教科書は使用しない。

参考書

参考書については随時講義中に紹介する。

成績評価の方法・基準

出席、小レポート、期末試験を総合して評価する。

事前準備学習

中学校レベルでよいので、世界史（特に欧米）、日本史（特に戦後現代史）についての復習をしておくこと。

共通

E

Pe

Pc

C

生活基礎

W

F

看護基礎

N

経営基礎

M

卒外

## 備考

教室の定員の事情で a、b、c、d それぞれで適正受講者数に振り分けることがある。振り分けを実施するのは最初の講義開始時であるので、必ず出席すること。

## 50054 情報メディアの活用 b

(Use of Information Media b)

配置年次 2

単位数 2 期間 前期

担当者 本田 敏明

履修可能学科

E C W F

関連資格

司書教

到達目標

学校教育における教育とは何かを教師の視点から考察することができる。また、授業指導を実際にどのようにすればよいのかについて、具体的実践例を参考にしながら理解することができる。また、今日の学校教育において情報化社会の進展とともにその重要性を増している視聴覚教育の考え方や行い方について、密接な関連がある情報教育も視野に入れながら検討することができる。

授業計画

1. はじめに：教育方法とは何か
2. 学校教育の構造(1)学校教育の領域について
3. 学校教育の構造(2)学校教育の機能について
4. 授業過程の構造(1)教授－学習過程について
5. 授業過程の構造(2)陶冶－訓育過程について
6. 授業過程の構造(3)学級教授組織について
7. 授業指導の技術と思想(1)指導的評価活動と班づくり
8. 授業指導の技術と思想(2)教材研究と発問づくり
9. 授業指導の技術と思想(3)教材研究演習
10. 授業指導の技術と思想(4)集団思考について
11. 授業指導の技術と思想(5)集団思考演習
12. 視聴覚教育について(1)定義と歴史
13. 視聴覚教育について(2)視聴覚メディアと教育
14. 視聴覚教育について(3)情報教育との関連
15. 今日の教育方法について、および総まとめ

授業概略

学校教育における教育とは何かを教師の視点から考察する。また、授業指導を実際にどのようにすればよいのかについて、具体的に実践例を参考にしながら理解していく。また、今日の学校教育において情報化社会の進展とともにその重要性を増している視聴覚教育の考え方や行い方について、密接な関連がある情報教育も視野に入れながら検討する。

教科書

教科書は使用しない。

参考書

参考書については随時講義中に紹介する。

成績評価の方法・基準

出席、小レポート、期末試験を総合して評価する。

事前準備学習

中学校レベルでよいので、世界史(特に欧米)、日本史(特に戦後現代史)についての復習をしておくこと。

備考

教室の定員の事情で a、b、c、d それぞれで適正受講者数に振り分けることがある。振り分けを実施するのは最初の講義開始時であるので、必ず出席すること。

## 50054 情報メディアの活用 c

(Use of Information Media c)

配置年次 2

単位数 2 期間 後期

担当者 本田 敏明

履修可能学科

E C W F

関連資格

司書教

到達目標

学校教育における教育とは何かを教師の視点から考察することができる。また、授業指導を実際にどのようにすればよいのかについて、具体的実践例を参考にしながら理解することができる。また、今日の学校教育において情報化社会の進展とともにその重要性を増している視聴覚教育の考え方や行い方について、密接な関連がある情報教育も視野に入れながら検討することができる。

授業計画

1. はじめに：教育方法とは何か
2. 学校教育の構造(1)学校教育の領域について
3. 学校教育の構造(2)学校教育の機能について
4. 授業過程の構造(1)教授－学習過程について
5. 授業過程の構造(2)陶冶－訓育過程について
6. 授業過程の構造(3)学級教授組織について
7. 授業指導の技術と思想(1)指導的評価活動と班づくり
8. 授業指導の技術と思想(2)教材研究と発問づくり
9. 授業指導の技術と思想(3)教材研究演習
10. 授業指導の技術と思想(4)集団思考について
11. 授業指導の技術と思想(5)集団思考演習
12. 視聴覚教育について(1)定義と歴史
13. 視聴覚教育について(2)視聴覚メディアと教育
14. 視聴覚教育について(3)情報教育との関連
15. 今日の教育方法について、および総まとめ

授業概略

学校教育における教育とは何かを教師の視点から考察する。また、授業指導を実際にどのようにすればよいのかについて、具体的に実践例を参考にしながら理解していく。また、今日の学校教育において情報化社会の進展とともにその重要性を増している視聴覚教育の考え方や行い方について、密接な関連がある情報教育も視野に入れながら検討する。

教科書

教科書は使用しない。

参考書

参考書については随時講義中に紹介する。

成績評価の方法・基準

出席、小レポート、期末試験を総合して評価する。

事前準備学習

中学校レベルでよいので、世界史(特に欧米)、日本史(特に戦後現代史)についての復習をしておくこと。

備考

教室の定員の事情で a、b、c、d それぞれで適正受講者数に振り分けることがある。振り分けを実施するのは最初の講義開始時であるので、必ず出席すること。

## 50054 情報メディアの活用 d

(Use of Information Media d)

配置年次 2

単位数 2 期間 後期

担当者 本田 敏明

履修可能学科

E C W F

関連資格

司書教

**到達目標**

学校教育における教育とは何かを教師の視点から考察することができる。また、授業指導を実際にどのようにすればよいのかについて、具体的実践例を参考にしながら理解することができる。また、今日の学校教育において情報化社会の進展とともにその重要性を増している視聴覚教育の考え方や行い方について、密接な関連がある情報教育も視野に入れながら検討することができる。

**授業計画**

1. はじめに：教育方法とは何か
2. 学校教育の構造(1)学校教育の領域について
3. 学校教育の構造(2)学校教育の機能について
4. 授業過程の構造(1)教授－学習過程について
5. 授業過程の構造(2)陶冶－訓育過程について
6. 授業過程の構造(3)学級教授組織について
7. 授業指導の技術と思想(1)指導的評価活動と班づくり
8. 授業指導の技術と思想(2)教材研究と発問づくり
9. 授業指導の技術と思想(3)教材研究演習
10. 授業指導の技術と思想(4)集団思考について
11. 授業指導の技術と思想(5)集団思考演習
12. 視聴覚教育について(1)定義と歴史
13. 視聴覚教育について(2)視聴覚メディアと教育
14. 視聴覚教育について(3)情報教育との関連
15. 今日の教育方法について、および総まとめ

**授業概略**

学校教育における教育とは何かを教師の視点から考察する。また、授業指導を実際にどのようにすればよいのかについて、具体的に実践例を参考にしながら理解していく。また、今日の学校教育において情報化社会の進展とともにその重要性を増している視聴覚教育の考え方や行い方について、密接な関連がある情報教育も視野に入れながら検討する。

**教科書**

教科書は使用しない。

**参考書**

参考書については随時講義中に紹介する。

**成績評価の方法・基準**

出席、小レポート、期末試験を総合して評価する。

**事前準備学習**

中学校レベルでよいので、世界史（特に欧米）、日本史（特に戦後現代史）についての復習をしておくこと。

**備考**

教室の定員の事情でa、b、c、dそれぞれで適正受講者数に振り分けることがある。振り分けを実施するのは最初の講義開始時であるので、必ず出席すること。

**50055 教育課程論**

(Survey of Curricula)

配置年次 3

単位数 2 期間 集中

担当者 小川 哲哉

履修可能学科

F

関連資格

教職

到達目標

教育課程に関する基本的事項についての理解を深め、実践的スキルを身につけることができる。学習指導要領を分析し、授業実践に欠かせない学習指導案や教育評価の意義を理解することができる。

授業計画

- 第1回：本講義の進め方
- 第2回：教育課程の現代的意義(1)－教育課程とは何か－
- 第3回：教育課程の現代的意味(2)－教育課程の思想的類型－

第4回：近代日本の教育課程の歴史－戦前編－

第5回：現代日本の教育課程の歴史－戦後編（学習指導要領の改訂を中心に）－

第6回：教育課程の「理論＝実践」問題の新しい動き－1990年代以降の状況－

第7回：教育課程の実際－授業の構造分析－

第8回：授業実践の実際(1)－学習指導案の作成方法－

第9回：授業実践の実際(2)－学習指導案の事例検討－

第10回：模擬授業実践(1)－「導入」と「展開」の考察－

第11回：模擬授業実践(2)－「まとめ」の分析－

第12回：教育評価の問題(1)－授業評価、教育課程評価、学校評価の関係性－

第13回：教育評価の問題(2)－教育評価の新しい動向－

第14回：教育課程の現代的課題－教育課程の新しい可能性－

第15回：総括とまとめ及び試験

**授業概略**

教育活動の重要な要素の一つである教育課程の「理論＝実践」問題を論究することが本授業の目標である。教育課程の理論的分析だけではなく、授業の構造分析や学習指導案の作成も行う。

**教科書**

特に使用しないが、テキストに準ずる学習書は授業の中で適宜紹介する。

**参考書**

文部科学省「中学校学習指導要領」（平成20年3月）

文部科学省「高等学校学習指導要領」（平成21年3月）

**成績評価の方法・基準**

小テストやレポート（20%）、試験（80%）の成績を総合的に判断して、評価する。

**事前準備学習**

近年注目されている「学力問題」に対して多様な興味関心を深めておくこと。

**50056 栄養教育実習（事前事後指導1単位を含む）**

(Practicum in Nutrition Education (Including 1 Credit of Guidance and Followup))

配置年次 4

単位数 2 期間 通年

担当者 井川 聡子、高橋 幸子

履修可能学科

F

関連資格

教職

到達目標

学校教育現場において、児童・生徒に対する食に関する指導の実際を体験することにより、食のコーディネータである栄養教諭の役割についての理解を深め、その適性を得ることができる。

授業計画

1. 事前・事後指導（ガイダンス5回程度実施）  
事前指導では、教育実習の意義・目的、心構えなどを理解します。また実習に向けての事前学習・準備を行います。事後指導では、実習の反省、問題点の整理、今後の課題の明確化等を行ないます。
2. 教育実習期間（9～10月中の平日5日間）
3. 実習内容
  - (1) 指導教諭等からの説明（学校経営、校務分掌の理解、服務等）
  - (2) 児童・生徒への個別な相談指導の実習
  - (3) 児童・生徒への教科・特別活動等における教育指導の実習等・学級活動及び給食の時間における食の指導の参観・補助・教科等における教科担任と連携した指導の参観・補助・児童生徒集会、委員会活動、クラブ活動における指導の参観・補助・指導計画案、指導案の立案作成、教材研究 等

(4) 食に関する指導の連携・調整の実習(校内における連携・調整、家庭・地域との連携・調整の参観、補助)

#### 授業概略

本実習では、栄養教諭の役割、職務について理解を深め、栄養教育に必要な資質の向上を図ることを目的とします。実際の学校教育現場(小・中学校)において、栄養教諭に係わる基礎的な資質と適性を身に付けるとともに、児童・生徒に対する食に関する授業研究、生徒指導、学校行事などを通して、栄養教育における実践的な指導力を養います。

#### 教科書

学校栄養指導論Ⅰ、Ⅱで使用したものと同じ。

#### 参考書

特になし。

#### 成績評価の方法・基準

事前学習・準備の状況、実習校からの評価表、実習ノート、報告レポートについて総合的に判断します。

#### 事前準備学習

関連教科の復習を十分行って臨むこと。

#### 備考

実習目的を十分理解し、学習目標を持って積極的に臨むこと

『日本語教育能力検定試験に合格するための本』平成23年度版、アルク、価格未定

#### 成績評価の方法・基準

期末の記述式試験(持ち込み不可)を主たる判定材料とする。各授業の終わりにショートレポートを課す場合がある。その際は20%以内を限度として成績に反映させる。

#### 事前準備学習

特に必要はない。

#### 備考

本授業は、日本語教育の最も基礎的な講義するものなので、なるべく早い段階(学年)で履修することが望ましい。なお、本授業の単位を修得していないと、教育実習の授業に登録することができない。

## 50060 日本語と社会 (Japanese and Society)

配置年次 1

単位数 2 期間 前期

担当者 伊森 洋子

履修可能学科

E Pe Pc C

関連資格

日本語

到達目標

日本語を客観的に分析する能力を身につけ、日本語とそれが使われている社会と文化の関わりについて理解を深めることができます。

授業計画

- 【第01回】授業の到達目標と概略
- 【第02回】世界の中の日本語
- 【第03回】言語と社会の関係1—社会文化能力
- 【第04回】言語と社会の関係2—言語接触と言語の多様性
- 【第05回】言語と社会の関係3—社会言語学
- 【第06回】言語使用と社会1—コミュニケーション学
- 【第07回】言語使用と社会2—待遇表現・敬語
- 【第08回】言語使用と社会3—授受
- 【第09回】言語使用と社会4—受身、「する・なる」
- 【第10回】言語使用と社会5—言語・非言語行動
- 【第11回】言語使用と社会6—言語変種
- 【第12回】異文化コミュニケーションと社会
- 【第13回】日本語を「外国語」として学ぶ1—文型
- 【第14回】日本語を「外国語」として学ぶ2—場面と機能
- 【第15回】日本語を「外国語」として学ぶ3—日本語教育の現場

授業概略

正しい文法で語彙を並べ発音しても、コミュニケーションはうまくいきません。コミュニケーション方法は、その言語が使われている社会や文化、人間関係、場面や内容と深く関わっています。授業では日本語を外国語として客観的に眺め、日本語のおもしろさや特徴を社会との関わりの中で捉えていきます。

教科書

使用する資料については、授業の際に配布します。

参考書

参考文献は授業中に適宜紹介します。

成績評価の方法・基準

最終試験の素点を100点満点とし、無断欠席1回につき10点、無断遅刻1回につき5点を減じたものを、「履修要覧」に掲載されている成績評価の基準に当てはめて評価します。

事前準備学習

なし

備考

日本語教育能力検定試験に参考になる内容を含んでいます。

## 50059 日本語教育概論 (Overview of Teaching Japanese)

配置年次 1

単位数 2 期間 後期

担当者 堀口 悟

履修可能学科

E Pe Pc C

関連資格

日本語

到達目標

日本語教師に必要な知識・技術に関する基礎的な理解を獲得する。

授業計画

- 【第01回】日本語教育カリキュラムとこの授業の位置づけ
- 【第02回】世界と日本・日本語教育の歴史
- 【第03回】日本語教育の現状
- 【第04回】異文化接触・異文化コミュニケーションと社会
- 【第05回】異文化理解と心理・異文化間教育
- 【第06回】これまでのまとめ
- 【第07回】言語と社会の関係(1)
- 【第08回】言語と社会の関係(2)
- 【第09回】言語使用と社会
- 【第10回】言語と心理(1)
- 【第11回】言語と心理(2)
- 【第12回】これまでのまとめ
- 【第13回】外国語教授法と日本語教授法
- 【第14回】コース・デザインとは何か
- 【第15回】総まとめ

授業概略

日本語教師として必要とされることは何か。また、日本語教育能力検定試験に出題されるのはどんな内容か。さらには、日本語教師になるためには、どんな勉強をしたらいいのか。以上3点の基本となる事項を網羅的に講義します。この授業は、他の日本語教育関連授業の紹介にもなっています。

教科書

なし

参考書

岡田英夫著『日本語教育能力検定試験 基礎知識50』2006年、アルク、2,310円

『日本語教育能力検定試験に合格するための本』平成22年度版、アルク、2,625円

## 50061 日本語と心理

(Japanese and Psychology)

配置年次 2

単位数 2 期間 前期

担当者 小林 久美子

履修可能学科

E Pe Pc C

関連資格

日本語

到達目標

日本語教育に心理学的な知見や考えを活かすことができる。

授業計画

- [第1回] この授業の到達目標と概略
- [第2回] 行動主義心理学と認知主義心理学
- [第3回] 記憶の仕組み1
- [第4回] 記憶の仕組み2
- [第5回] 留学生の不満と問題
- [第6回] 留学生について知ろう
- [第7回] 第1回から6回までのまとめ、中間テスト
- [第8回] 文章の理解と産出1
- [第9回] 文章の理解と産出2
- [第10回] 語彙の習得1
- [第11回] 語彙の習得2
- [第12回] 談話1
- [第13回] 談話2
- [第14回] 学習の仕組み
- [第15回] 第8回から14回までのまとめ、期末テスト

授業概略

日本語教育に応用できる心理学の知見の中から、主なものを取り上げます。そしてそれがどのように日本語教育に使えるかを考えます。

教科書

授業で使用する資料はIC-UNIPAに授業数日前にアップするので、ダウンロードし、印刷して持参のこと。なお、第1回目の授業の資料は教室で配布する。

参考書

特になし。

成績評価の方法・基準

中間テスト	35%
期末テスト	35%
まとめのプリント	25%
平常点	5%

事前準備学習

特になし。

## 50062 日本語教育実習

(Practicum in Teaching Japanese)

配置年次 3

単位数 2 期間 通年

担当者 堀口 悟

履修可能学科

E Pe Pc C

関連資格

日本語

到達目標

本学卒業後すぐ、日本語教師として教壇に立てる力を養成する。

授業計画

- 【第01回】教育実習生の心得
- 【第02回】実習の具体的な方法
- 【第03回】実習先との調整
- 【第04回】教育実習の実際(1) 自習先の実際
- 【第05回】実習先の概要報告(1) 日立地区
- 【第06回】実習先の概要報告(2) 水戸・その他の地区

【第07回】これまでのまとめ

【第08回】授業参観報告(1)「あんず」日本語教室

【第09回】授業参観報告(2)「さくら」日本語教室

【第10回】授業参観報告(3)「ソフィア」日本語教室

【第11回】授業参観報告(4)「ふじの会」日本語教室

【第12回】授業参観報告(5) その他の教室

【第13回】これまでのまとめ

【第14回】授業参観から授業担当へ

【第15回】日本語教育能力検定試験について

【第16回】後期授業概要

【第17回】教育実習の実際(2) 授業担当の実際

【第18回】指導案の書き方

【第19回】指導案と教室活動

【第20回】授業体験報告I(1) 日立地区A

【第21回】授業体験報告I(2) 日立地区B

【第22回】授業体験報告I(3) 水戸地区

【第23回】授業体験報告I(4) その他の地区

【第24回】これまでのまとめ

【第25回】模擬授業の批評と討論(1) 日立地区A

【第26回】模擬授業の批評と討論(2) 日立地区B

【第27回】模擬授業の批評と討論(3) 水戸地区

【第28回】模擬授業の批評と討論(4) その他の地区

【第29回】アクション・リサーチとその方法

【第30回】総まとめ

授業概略

日本語教育実習を行うための基礎知識を講ずると共に、実習生による実習経過・結果の発表をして頂き、実習の円滑と教育技能向上を目指す授業である。

日本語教育実習生は、毎週1回の実技と講習とを並行して通年履修する。実技では近隣の日本語学校や日本語ボランティアサークルで、実際に授業を見学したり自分で教える経験をし、本授業(講習)では、日本語教師となるための知識や理論を学習する。

教科書

『みんなの日本語』初級編本冊1、スリーエーネットワーク、2,625円

『みんなの日本語』初級編本冊2、スリーエーネットワーク、2,625円

『みんなの日本語 教え方の手引き』初級編1、スリーエーネットワーク、2,940円

『みんなの日本語 教え方の手引き』初級編2、スリーエーネットワーク、2,940円

参考書

アルク編集部『日本語教育能力検定試験に合格するための本』2010年アルク、2,625円

小林ミナ『日本語教育能力検定試験に合格するための教授法』2010年アルク、2,100円

成績評価の方法・基準

実習先および授業への出席状況、授業態度、授業での発表の内容等を総合して評価する。

事前準備学習

本授業を履修するためには、前年度までに

- (1)「日本語教育概論」を習得していること。
- (2)「日本語と社会」「日本語と心理」「異文化間コミュニケーション」「日本語の構造I」のうち、少なくとも1科目を修得していること。
- (3)以上を含んで、日本語教員資格科目合計20単位以上習得していること。

備考

実習希望者は、日本語教育担当者会議の審査を経て、本科目履修の可否が決定される。

共通

E

Pe

Pc

C

生活基礎

W

F

看護基礎

N

経営基礎

M

卒外

## 50063 日本語学各論Ⅰ（音声） (Linguistic Study of Japanese I (Phonetics))

配置年次 1  
単位数 2 期間 後期  
担当者 岡崎 敏雄  
履修可能学科  
E Pe Pc C  
関連資格  
日本語  
到達目標  
自分の発音を素材にして、日本語音声の魅力と奥深さを味わい、音声学と音韻論を学ぶ。  
授業計画  
第一回 日本語音声の特徴  
第二回 擬音語  
第三回 音声と音韻  
第四回 日本語音韻体系  
第五回 外来語音の表記  
第六回 漢字の読み  
第七回 ハ行音の変遷  
第八回 万葉仮名と古代日本語音  
第九回 アクセント  
第十回 特殊拍  
第十一回 日本語教育における聴解指導の理論と実際 1  
第十二回 日本語教育における聴解指導の理論と実際 2  
第十三回 自分のことばを素材に音声の魅力を味わう 1  
第十四回 自分のことばを素材に音声の魅力を味わう 2  
第十五回 総まとめ

### 授業概略

日本語音声の魅力を感じ取ることができるような点について、素材をもとに自分なりに感じ取り、考える。例えば、「身近（みぢか）」と「河鹿（かじか）」の発音を聞き分けたり作り分けたりする術。日本語のライオンはLかRか。「生」の読み方を全部言えるか。「柿」と「夏期」の発音はどこが違うか。「一本、二本、三本、六本」なぜ読み方が違うか。16世紀に日本にきたポルトガル人宣教師はどうやって日本語を学んだか。九、月見里という苗字の読み方は何か、なぜそう読むのか。

### 教科書

ハンドアウト配布。

### 参考書

特になし。

### 成績評価の方法・基準

レポートの素点を100点満点とし、無断欠席一回につき十点減点したものを「履修要覧」に掲載されている成績基準に即して評価します。

### 事前準備学習

特になし。

## 50064 日本語学各論Ⅱ（文字） (Linguistic Study of Japanese II (Writing))

配置年次 1  
単位数 2 期間 前期  
担当者 染谷 智幸  
履修可能学科  
E Pe Pc C  
関連資格  
日本語  
到達目標  
日本語教育能力試験へむけての基礎的な知識を獲得する  
授業計画  
1 授業概要の説明  
2 文字・表記とは何か  
3 日本語教育の中での文字・表記

- 4 世界の言語と文字表記（学生の発表）（1）
- 5 世界の言語と文字表記（学生の発表）（2）
- 6 世界の言語と文字表記（学生の発表）（3）
- 7 世界の言語と文字表記（学生の発表）（4）
- 8 日本語の文字・表記の特異性
- 9 日本語の文字・表記の歴史（1）
- 10 日本語の文字・表記の歴史（2）
- 11 日本語の文字・表記の歴史（3）
- 12 日本語教育能力試験で求められるもの（1）
- 13 日本語教育能力試験で求められるもの（2）
- 14 まとめと討論（1）
- 15 まとめと討論（2）

### 授業概略

日本語の文字・表記について考える。日本語教育能力検定試験の対策を見すえながら、文字・表記の問題を世界の言語を視野に入れながら考えてゆくことにする。世界の言語表記のあり方から見て、日本語がいかに豊かな表現方法を獲得しているか、そのユニークさはどこから来ているのかを考える。

### 教科書

プリント中心

### 参考書

授業中に指示する

### 成績評価の方法・基準

最終のレポート、もしくは試験

### 事前準備学習

授業は主に、世界の言語の中の日本語というテーマになるので、その観点から興味のある言語について学んでおくと良い。

## 50065 日本語の構造Ⅰ (Structure of Japanese I)

配置年次 2  
単位数 2 期間 前期  
担当者 猿田 知之  
履修可能学科  
E Pe Pc C

### 関連資格

日本語

### 到達目標

「日本語ができれば、日本語を教えることができる」という考えが誤りであることを、文法的側面から具体的に説明できる。

### 授業計画

- [第1回] 日本語が話せることと、日本語を説明することの違い。
- [第2回] 学校文法と日本語教育文法の相違。
- [第3回] 動詞と名詞について。
- [第4回] 動詞文と名詞文について。
- [第5回] 述語について。
- [第6回] 動詞と時間について（テンス）。
- [第7回] 動詞のアスペクトについて。
- [第8回] 受身文について。
- [第9回] 英語と日本語の受身文比較。
- [第10回] 中国語・韓国語と日本語の受身文比較。
- [第11回] 連体修飾について。
- [第12回] 連用修飾について。
- [第13回] 従属節について。
- [第14回] 文法指導の諸問題。
- [第15回] 日本語教育現場と日本語文法。

### 授業概略

実践的・実用的な文法理解と運用をめざして、出来る限り具体的問題を取りあげ、受講生の文法解釈力と説明能力が進展するよう授業をすすめる。

## 教科書

井口厚夫著『日本語文法整理読本』（ハベル・プレス）

## 参考書

山口明徳編『日本語文法大辞典』（明治書院）

## 成績評価の方法・基準

試験の成績を主とし、出席率を加味する。

## 事前準備学習

事前に次回学習事項を知らせ、必要事項の予習を指示する。

## 50067 日本語の歴史

(History of the Japanese Language)

配置年次 2

単位数 2 期間 後期

担当者 猿田 知之

履修可能学科

E Pe Pc C

関連資格

日本語

到達目標

日本語の成立と変遷の概略を具体的に説明できる。

授業計画

- [第1回] 国語と日本語の相違について。
- [第2回] 日本語の特色（系統と類型）について。
- [第3回] 日本語史の時代区分について。
- [第4回] 日本語の音韻史（古代）について。
- [第5回] いわゆる上代特殊仮名遣いについて。
- [第6回] 日本語の音韻史（近代）について。
- [第7回] 文字・表記の変遷。
- [第8回] 語彙の変遷。
- [第9回] 日本語の文法史（古代）。
- [第10回] 日本語の文法史（近代）。
- [第11回] 日本語の文章（文体）史。
- [第12回] 近代語の成立と展開。
- [第13回] 変動する現代語について。
- [第14回] これからの日本語について。
- [第15回] 総括、歴史としての日本語。

授業概略

日本語教育現場においても必要な日本語史重要事項を精選して、日本語の歴史の変遷を具体的に講述する。

教科書

真田真治著『合格するための日本語の歴史』（アルク）

参考書

飛田良文編『日本語学研究事典』（明治書院）

成績評価の方法・基準

試験の成績を主とし、出席率を加味する。

事前準備学習

事前に学習事項を知らせ、事典などで調べるよう指示する。

## 50068 生徒指導論

(Student Guidance)

配置年次 3

単位数 2 期間 後期

担当者 生越 達

履修可能学科

F

関連資格

教職

到達目標

現代社会を生きる子どもたちの特徴を理解し、またいじめや不登校、反社会的行動といった子どもたちの問題行動に具体的にに対応できるようになる。進路指導の理念を理解し、具体的にに対応できるようになる。

授業計画

1. オリエンテーション：この授業の概略と求められるこ

と

2. 生徒指導とは何か
3. 現代社会における生徒指導
4. 生徒指導に求められる教師の資質
5. 現代の子どもたちの特徴（第一回）
6. 現代の子どもたちの特徴（第二回）
7. いじめの構造と現代型いじめ
8. 不登校の構造と分類
9. 反社会的行動と子どもの攻撃性
10. 保護者への対応について
11. 家庭をどのように理解し、かかわっていくか
12. 現代社会における他者との共生
13. キャリア教育の理念と課題
14. キャリア教育の実践について
15. まとめ

授業概略

生徒指導を行うさいに求められる子ども理解について学び、具体的に不登校、いじめ、反社会的行動などを理解できるようにする。進路指導の理念と方法について学ぶ。

教科書

適宜プリントを用いる。教科書は用いない。

参考書

授業中に指示をする。

成績評価の方法・基準

試験により行う

事前準備学習

とくになし

備考

自ら考えることを重視したいので、積極的な参加を望む。講義のなかで指名して答えてもらったりすることもある。

共通

E

Pe

Pc

C

生活基礎

W

F

看護基礎

N

経営基礎

M

卒業